

景観形成ガイドライン

—（社）大阪府建築士事務所協会—

第1章 はじめに

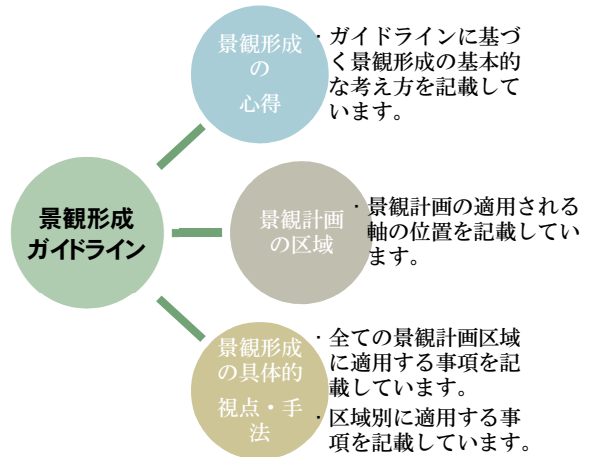
1. ガイドラインの目的

大阪府景観計画に基づき、地域の景観特性に調和した建築・開発等を誘導し良好な景観形成に寄与するため、景観に関する業務を景観の専門家として実施できるようにすることを目的とし、行為の制限に関する基準に適合するための参考資料として、具体的な視点や手法、考え方について示しています。

2. ガイドラインの構成

ガイドラインは、「景観形成の心得」「景観計画の区域」「景観形成の具体的視点・手法」の3つの内容で構成しています。

「景観形成の具体的視点・手法」においては、「全ての景観計画区域」に適用される基準の内容とその適合に向けた具体的な手法と、「区域別」に適用される基準・手法を記載しています。

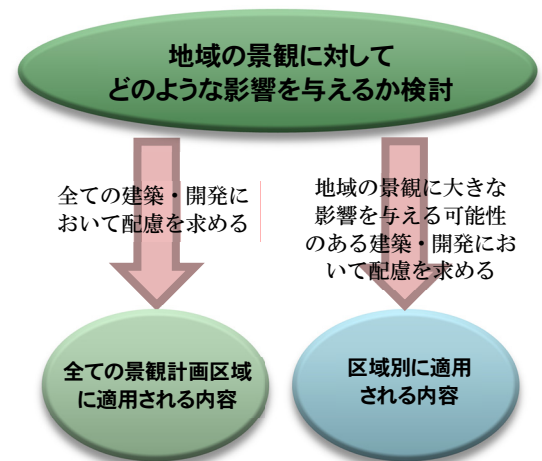


3. ガイドラインの使い方

「景観形成の具体的視点・手法」における、「全ての景観計画区域」に適用される内容については、全ての建築・開発において配慮を求める内容としています。

「区域別」に適用される内容については、各地域の地形や自然、市街地の状況など、その特性と調和することを重視し、地域の景観に大きな影響を与える可能性のある建築・開発について配慮を求める内容としています。

それぞれの地域で建築・開発を行う場合、その地域の景観に対してどのような影響を与えるのか検討した上で、本ガイドラインを参考にして配慮していただきたいと思えます。



第2章 景観形成の心得

1. 景観とは・・・

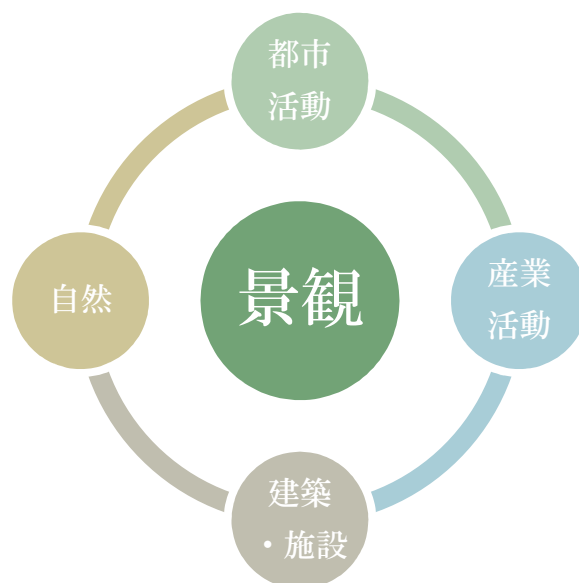
私たちのまわりにあるさまざまなもので構成されている環境を、眺め、感じたものを「景観」ととらえることができます。

そのような「景観」はさまざまな要素から成り立っています。山並み、川や海といった自然の要素は、景観の土台や骨格を形づくっており、さらには、建築物や道路等の施設のみならず、そこで展開される我々の生活も景観の重要な要素です。

私たちの生活は、環境にさまざまな働きかけを行い、環境を変えることもあります。こうした都市活動、産業活動等の人間の行為が歴史的な積み重ねを経て、文化となり、景観は形づくられていくのです。

そのような意味で、景観は我々の生活・文化が視覚的に形になって表れたものであるといえます。

私たちのさまざまな活動が、景観となって表れることから、良好な景観を創造し、保全し、育成するためには、府や市町村、府民、事業者等が共通認識のもとに、適切に役割を分担しながら、総合的かつ計画的に取り組んでいく必要があるのです。



2. 景観形成に取り組む視点

景観形成を推進するにあたっての基本的姿勢として、常に景観の全体像をデザインする視点を持つことが重要です。建築物、道路、公園等の公共施設、民間施設等が全体的に総合的な視点をもってつくられてこそ、良好な景観が生まれます。

(1) 自然環境に配慮する

大阪を形づくる自然の地形や気候等の風土を大切に考えるとともに、自然環境との調和や共生等、自然環境に配慮することにより、それらと密接な関係を保つことが必要です。

(2) 地域性、場所性、歴史性に配慮する

地域や場所の個性は、風土、歴史、文化や産業等の要因によってもたらされます。それぞれの地域や場所には固有の特性があるため、環境がもつさまざまな情報を読み取り、地域や場所にふさわしい景観形成を行うことが必要です。また、近景だけでなく背景となる風景も含め、どのような人がどのような視点から見るかにも配慮する必要があります。

(3) 生活や活動を通して考える

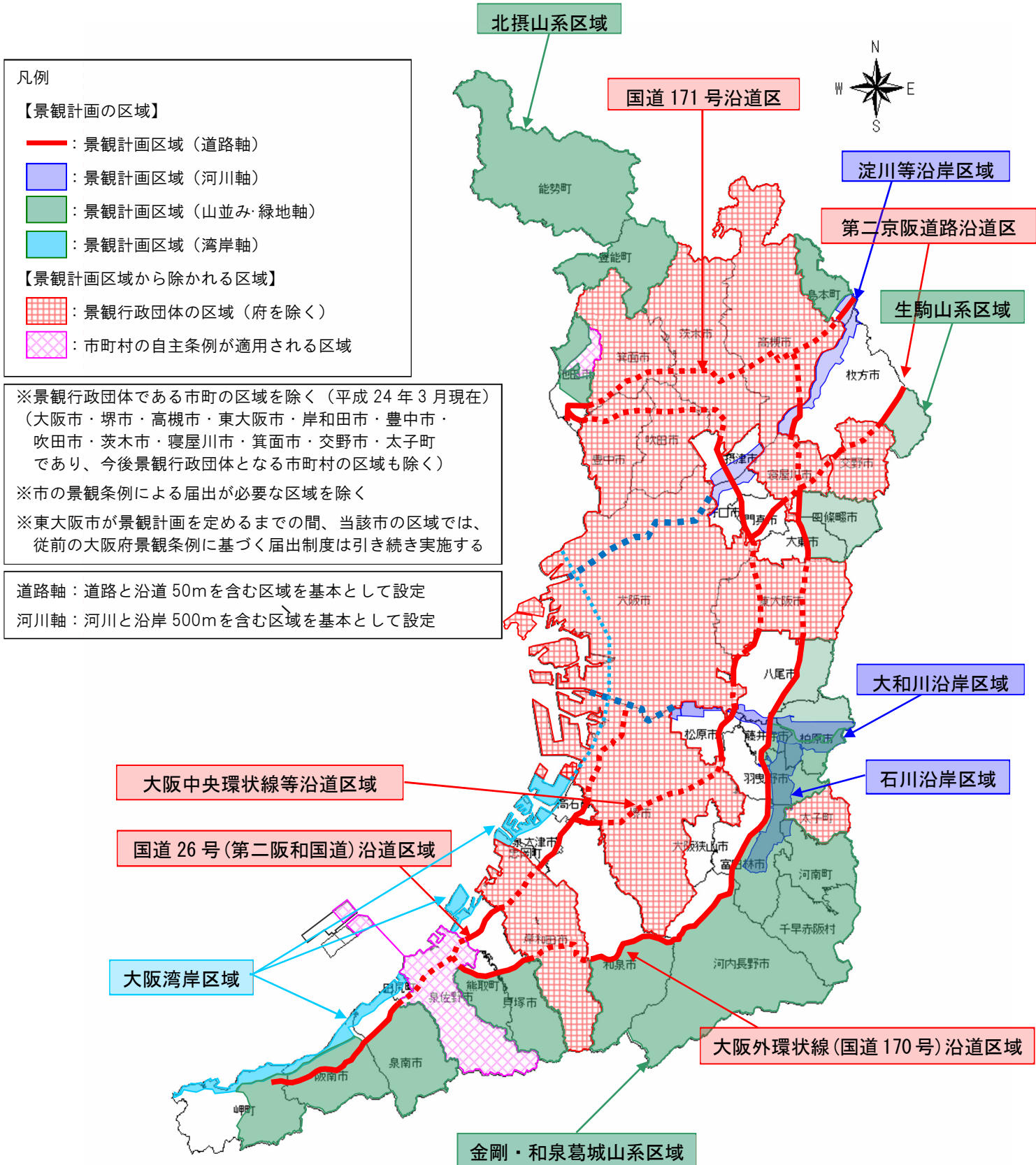
表面的な美しさだけでなく、機能面や安全面等への十分な配慮と相まって、快適な暮らしの環境が創造できるため、まちが生活や活動の場として快適で暮らしやすいか、それぞれの立場で、生活者の視点に立ち、また、社会規範や生活・経済活動の景観のルールにも配慮し、景観づくりを行うことが必要です。

(4) 心に残る風景をつくる

原風景（我々を育ててくれ、心にいつも持ち続けている風景）として、心のふるさととなりうる景観形成を目指すことが必要です。そのため、景観の優しさ、親しみやすさ、わかりやすさに十分配慮しつつ、人々の心に残る個性と魅力にあふれる景観をつくりまします。

第3章 景観計画の区域

大阪府景観計画の区域は、下図の通りです。本ガイドラインは、基本的にこれらの区域に適用されるものですが、景観形成基本方針に基づき、広域的な観点から景観上重要な区域を定めているため、景観行政団体や独自の景観条例のある自治体の区域においても活用されることを想定しています。



1 景観の特性

■ 沿道サービス施設、工場、業務施設、集合住宅などで構成される都市的沿道景観

市街地区域における道路には、京阪神を結ぶ国土軸、都市群をつなぐ主要な地域軸、大阪を代表した中央環状軸、生活と産業を支えるシンボル軸、主要なアクセス軸があります。道路沿道には、様々なサービス施設や工場、業務施設、集合住宅などが立地し、都市的な沿道景観となっています。

■ ポイント

- ◇ 国土軸、地域軸、中央環状軸、シンボル軸となる道路の沿道であり、道路を通る広域の人々を意識し、色彩・意匠等、外観に配慮して周辺と調和した秩序ある景観づくりを行きましょう。
- ◇ 幹線道路との交差点、鉄道駅周辺の象徴的な場所や IC 周辺部など交通量が多くなるところでは、良好なランドマークづくりや道路の線形を意識し、特に景観に配慮して、施設計画を行きましょう。



サービス施設や集合住宅などの立地による都市的な沿道景観



関空に近い海辺の商業施設などが集まる沿道景観

2 デザインの手法

■ 色（建築物）

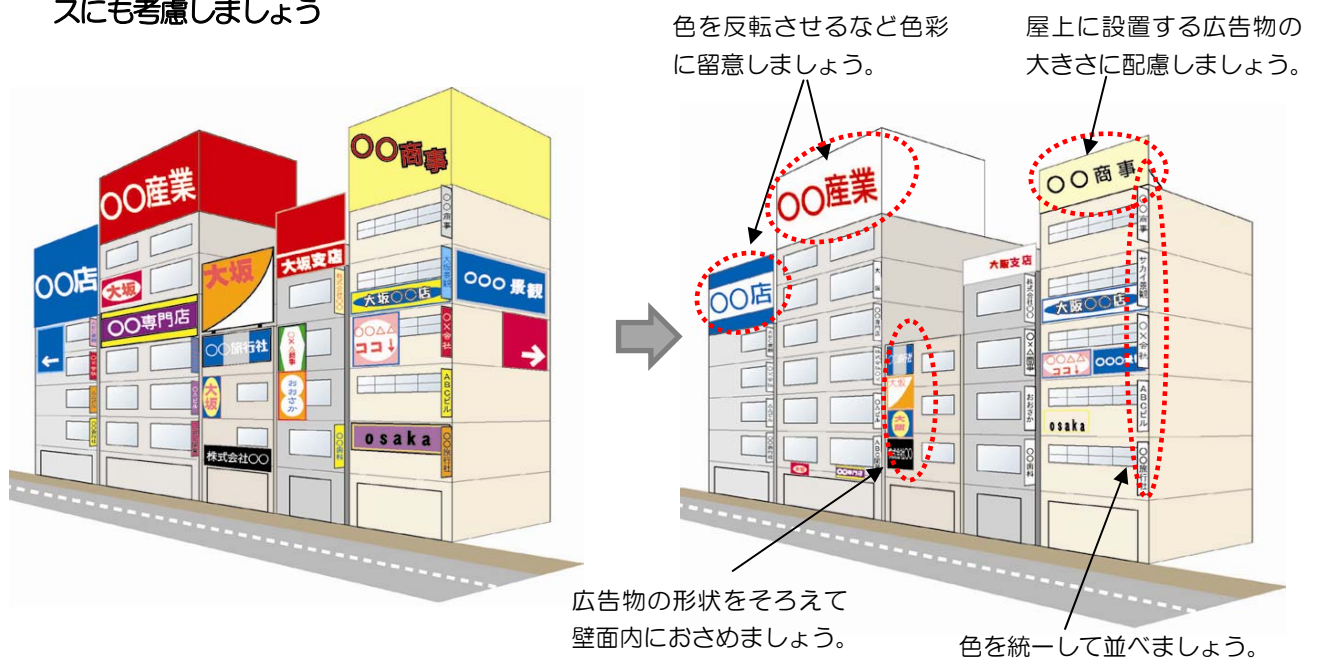
- 建築物の色彩は沿道景観として統一感をもたせましょう



それぞれの建築物が独自性や派手さを主張しすぎると景観の秩序が失われます。建築物のベースカラーはある程度周辺と統一し、サブカラー、アクセントカラーでアクセントをつけましょう。

■ 色（広告物）

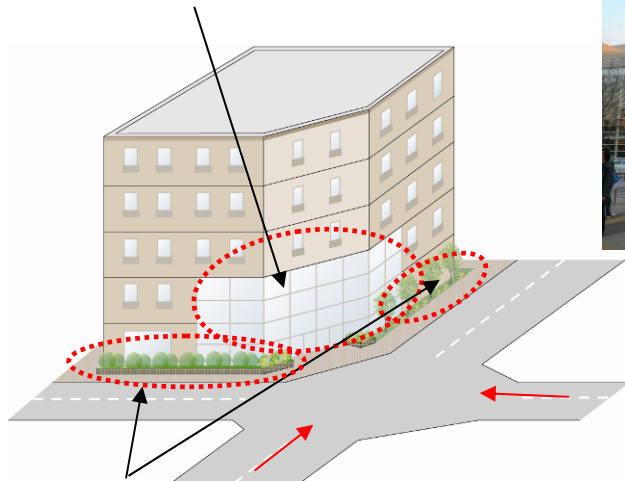
- 個々の屋外広告物のデザインを誇張しすぎることなく、その場所における広告物と周辺とのバランスにも考えましょう



■ 形状

■ 交差点付近の建築物は良好なランドマークづくりや生活風景に調和した意匠にしましょう

交差点部の形態・意匠に変化をつけましょう。



敷際を積極的に緑化して、うるおいをあたえましょう。



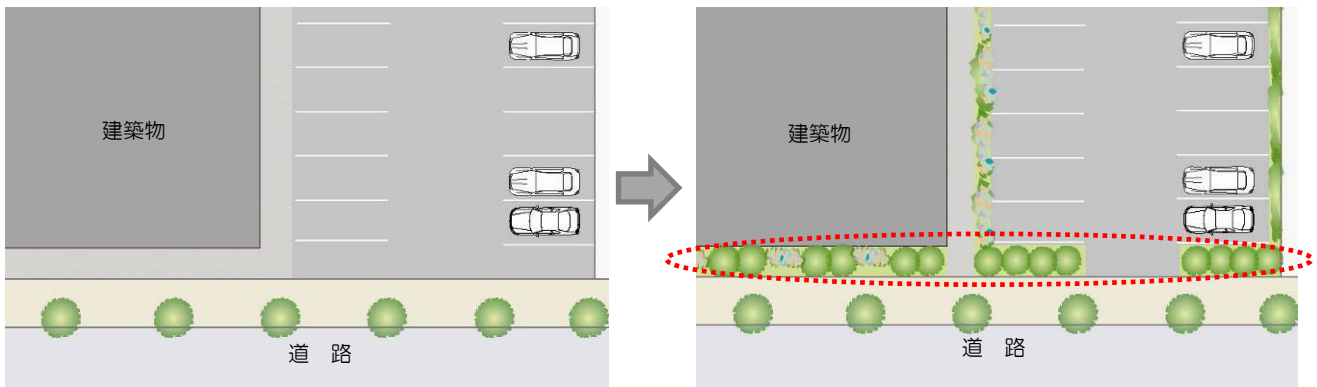
交差点に面する壁面の意匠や材料に変化を付け、まちかどを演出しています。

交差点部分に曲面のデザインを採用しています。



■ 緑化

■ 街路樹と一体となった敷地内のみどりの配置や、沿道からの見え方に配慮した整備の設置など、ドライバーからの視点を意識した緑豊かな沿道景観を形成しましょう



ドライバーからの死角とならないよう、主要道路からの見通しを確保しながら、敷際を緑化しましょう



商業施設等の敷際には、**内部が見渡せるように低木を植えて演出**するとよいでしょう。



駐車場と敷地境界部分にも緑化を行い、うるおいのある空間を演出しましょう。



工場等の大規模敷地の敷際には、**ボリュームのある緑を配置することで、ゆとりのある沿道**を演出しましょう

3 景観トピック

■ 夜間の街のにぎわいと美しさを演出するデザインを行いましょう

幹線道路沿いの夜間の景観は、道路沿いの建築物の照明による演出に大きな影響を受けます。夜間の街のにぎわいや美しさ、安全性を確保するために魅力的な照明計画を行いましょう。

例えば、屋外広告物の照明は、点滅式のものや著しく高輝度のものを避け、周辺の夜間景観の演出を阻害しないものとしましょう。

また、建築物内部の照明については、魅力ある空間を演出するために、内部の照明の明かりが外部に漏れるようしつらえの工夫を行ったり、温かみのある色温度の光源を用いたりしましょう。



敷際適度に照らして、あたたかい雰囲気演出しています。



照明を日よけテントに当てて、ほどよい明るさをつくりだしています。

1 景観の特性

■ 山並みや丘陵などへの眺望や田園風景、沿道の街路樹等が一体となり、みどりの連続性を感じる景観

道路軸は山並みの裾野を走っていることから、道路や沿道と一体となって山並みの優れた眺望景観やみどりの多い景観となっています。

■ ポイント

- ◇山並みや美しい街路樹など、みどりの多い優れた環境になじむ質の高い景観づくりを行きましょう。
- ◇山並みへの眺望を確保するよう努めるとともに、山並みのみどりとの連続性を意識した景観づくりを行きましょう。

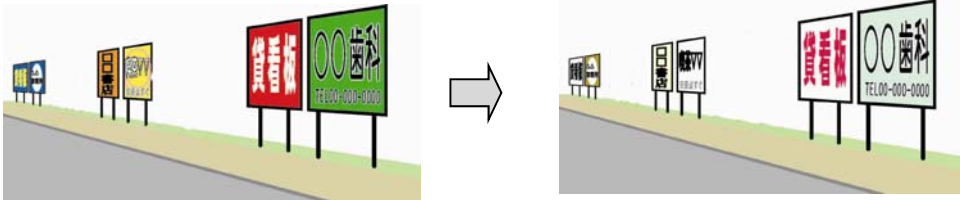


山並への眺望と沿道の街路樹が一体となった連続性のある景観

2 デザインの手法

■ 色（広告物）

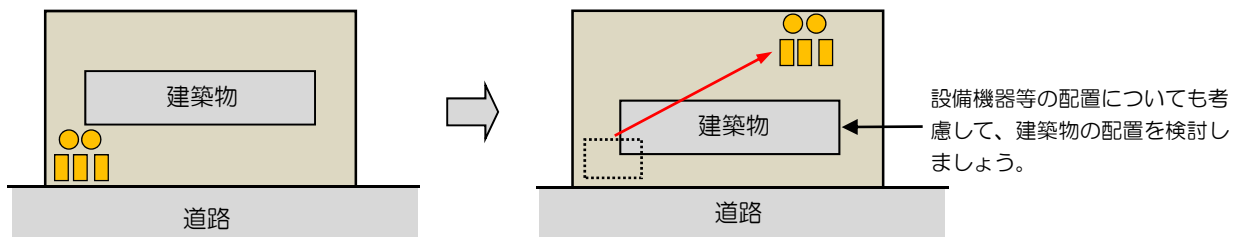
- 秩序ある景観づくりをめざして、広告物の色彩は周辺環境の配慮しましょう



それぞれの広告物が独自性や派手さを主張しすぎると景観の秩序が失われます。色を反転させるなど色彩に留意しましょう。

■ 配置（設備等）

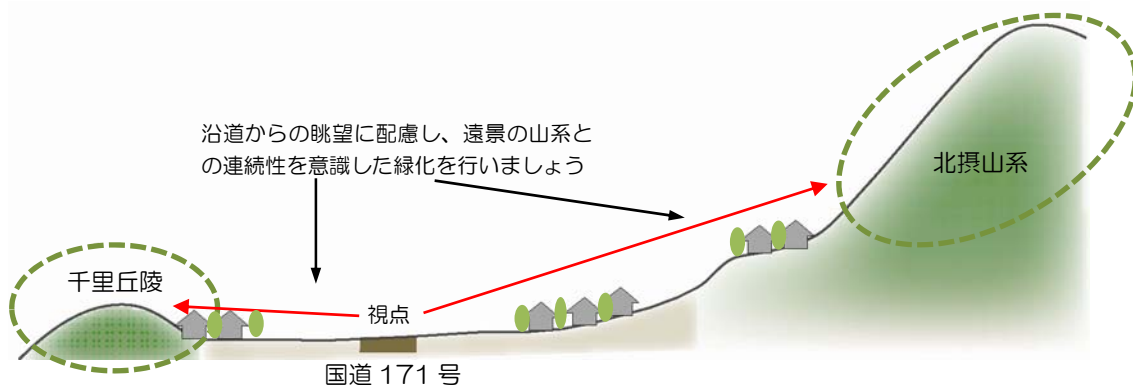
- 資材置き場や設備機器等は、目立ちにくい場所に配置する等、沿道からの見え方に配慮しましょう



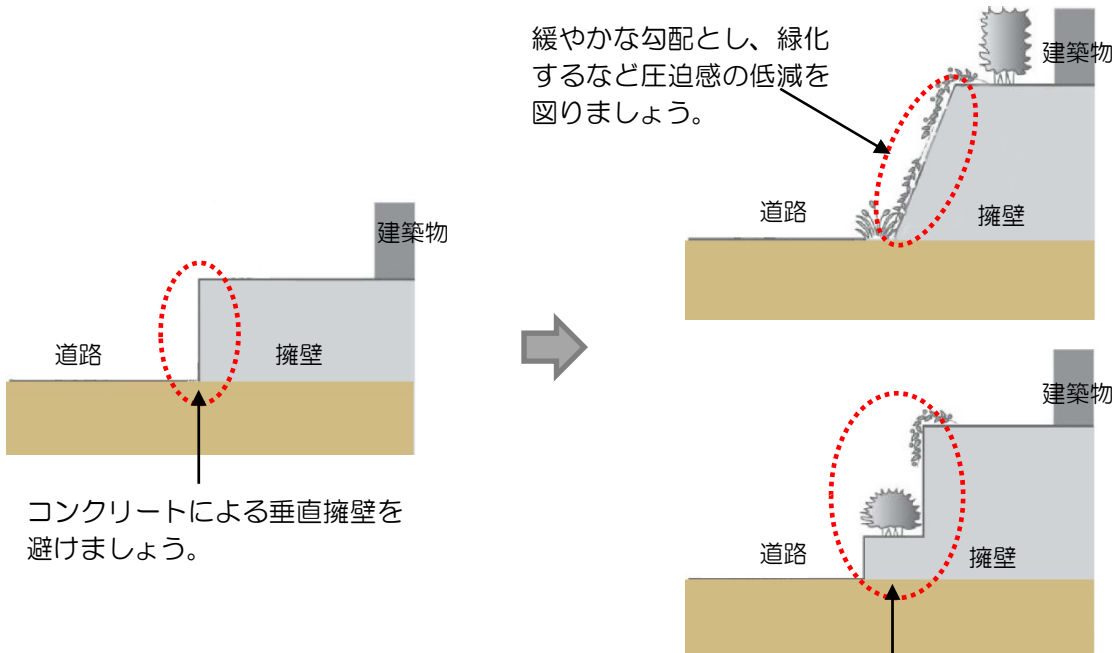
資材置き場や設備機器等は道路からできるだけ離したり、建築物の裏側に配置するなどの工夫を行いましょう。

■ 緑化

- 沿道から眺望できる山並みや田園景観との連続性を意識した外構等のデザインに努めましょう
また、大規模敷地の転用などの場合においては、みどりの拠点となるよう積極的な緑化に努めましょう



■ 道路との法面は出来る限り緩やかな勾配とし、周辺の植生と調和した緑化に努めましょう



コンクリートによる垂直擁壁を避けましょう。

垂直擁壁を分節することによって緑化を行うことも考えられます。



擁壁を緑化することで、沿道景観に潤いがうまれます。

1 景観の特性

大阪の北部を縁取る重要な緑と市街地が一体となった景観

北摂山系は大阪都心から10～15kmの距離にあり、大阪北部地域から緑の壁として視認されています。箕面市～高槻市における山並みが遠く、扇状に広がった平野では、国道171号等から山麓にかけて奥行きのある市街地が広がり、山並みと一体となった景観がみられます。

■ポイント

- ◇扇状地の市街地では、幹線道路から山麓部にかけての奥行きがあるため、遠景を意識した景観づくりを行きましょう。
- ◇国道171号等の幹線道路、公園などの不特定多数の人が集まる視点場からの見え方に配慮しましょう。



北摂山系の扇状地に市街地が広がる景観

幹線道路から北摂山系へのつながりを意識した景観

北摂山系と直交する幹線道路（国道423号等）では、山並みが道路軸上の限られた範囲で意識され、道路沿道の建築物と一体となった景観がみられます。また山並みに沿って走る幹線道路（国道171号等）では、市街地調整区域で山並みと山麓部の市街地とが一体となった景観がみられます

■ポイント

- ◇沿道に立地する建築物は、北摂山系による自然景観との調和を意識した形状・意匠にしましょう。
- ◇道路正面の山すそは、アイストップとなるため、山並み正面の建築行為では、背景となる山並みに配慮しましょう。
- ◇沿道に立地する建築物では、敷際等の緑化を図り、山並みの緑との連続性に配慮しましょう。
- ◇山麓部の市街地では、幹線道路から眺望されることを意識し、スカイラインに配慮しましょう。

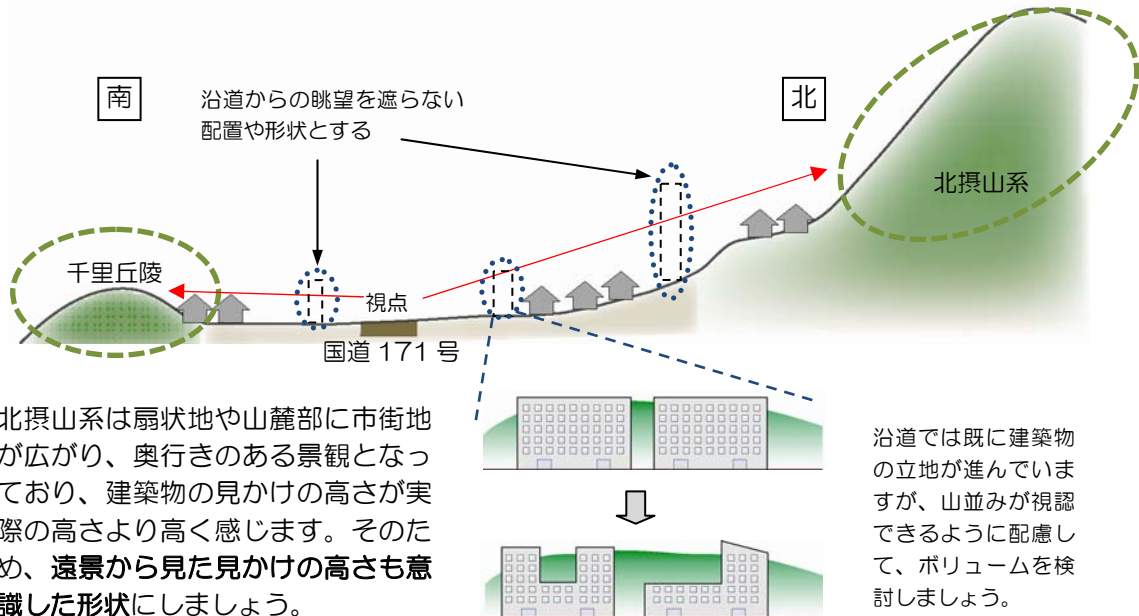


幹線道路から北摂山系へのつながりを意識した景観

2 デザインの手法

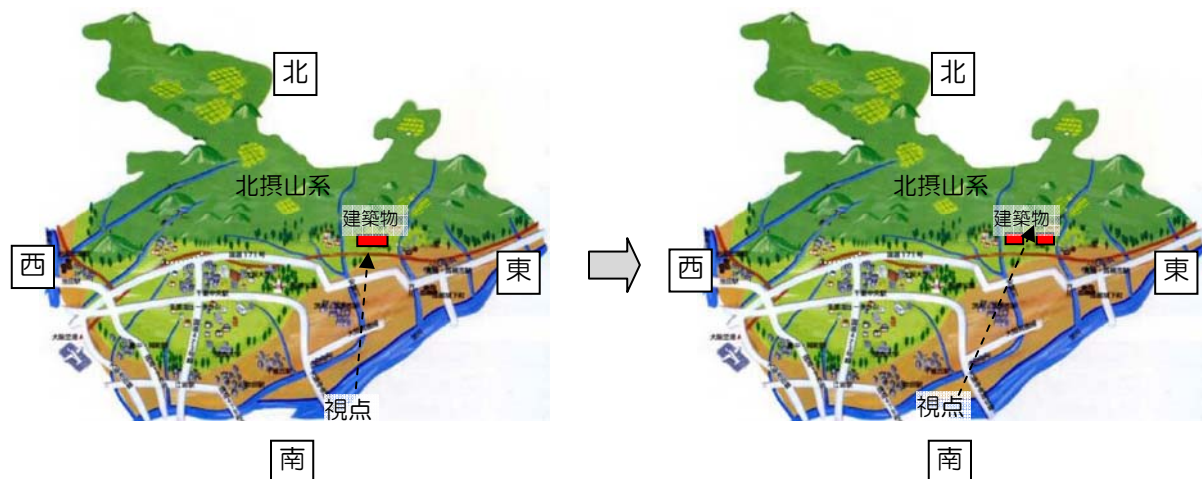
■ ポリューム

- 幹線道路や河川敷、公園、公共建築物など、不特定多数の人が集まる視点場からの眺望を阻害せず、圧迫感を感じさせないような形状にしましょう



■ 配置（建物）

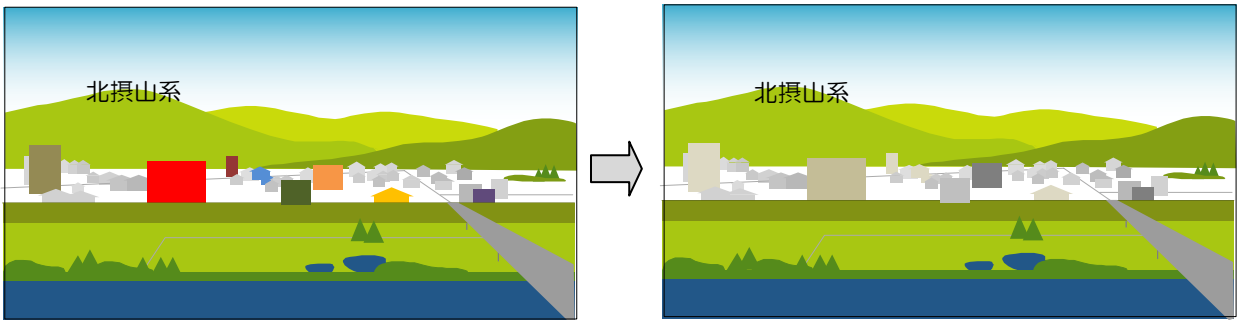
- 幹線道路や河川敷、公園、鉄道駅舎等からの視点を意識して、背景となる北摂山系への眺望に配慮した建物の配置を行きましょう



背景となる北摂山系に対する幹線道路や河川敷からの眺望が失われないように、建築物の配置等に配慮しましょう。

色

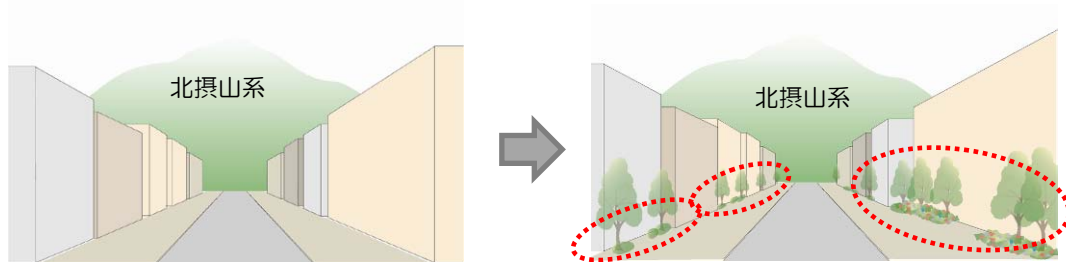
- 沿道等に立地する建築物は意匠等が周辺と比べて突出したものとならないよう、周辺の建築物や背景となる北摂山系になじむ色調を用いましょう



幹線道路や河川敷等から見られることを意識し、背景となる北摂山系や周辺の田園風景と調和する色を採用しましょう。

緑化

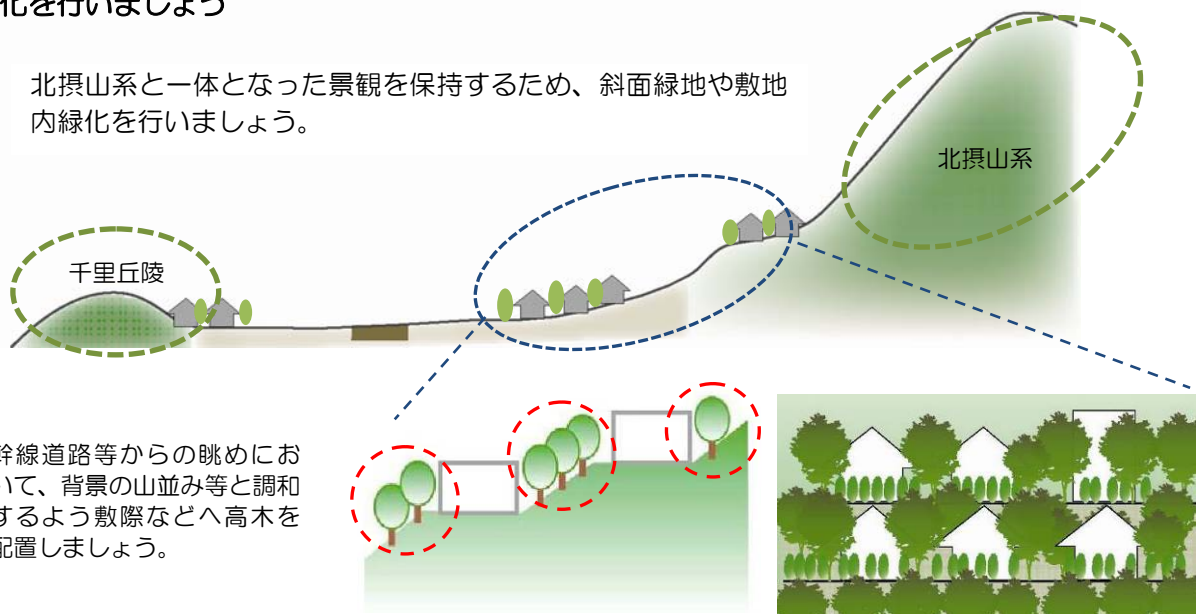
- 沿道に立地する建築物では、敷地等の緑化を図り、山並みの緑との連続性に配慮しましょう



壁面と敷地境界線とのスペースに緑化を行い、背景となる北摂山系との連続性を意識しましょう。

- 扇状地やの市街地では、幹線道路から山麓部にかけての奥行きがあるため、眺望に配慮した緑化を行いましょう

北摂山系と一体となった景観を保持するため、斜面緑地や敷地内緑化を行いましょう。



幹線道路等からの眺めにおいて、背景の山並み等と調和するよう敷地などへ高木を配置しましょう。

1 景観の特性

■ 山すそに広がる郊外市街地の背景あるいは眺望対象としての自然景観

大阪都心から10～15kmの距離にある生駒山系は、大阪大都市地域からも視認できる位置にあり、市街地からの眺望を縁取る緑の屏風として、緑のランドマークとなっています。

■ ポイント

- ◇「山麓付近」及び「山麓と市街地の中間部」等で大規模建築行為や開発を行う場合は、建築物等と背景となる生駒山系とが一体となるような景観づくりを行いましょう。
- ◇生駒山系は勾配が急なため、より近景を意識した景観づくりを行いましょう。
- ◇公園などの不特定多数の人が集まる視点場からの見え方に配慮しましょう。
- ◇市街地に隣接する山腹斜面では、緑地を形成・保全し、維持していくように努めましょう。



山すそに広がる郊外市街地と自然景観

■ 幹線道路沿道の建築物や山すそに広がる市街地、山並みが織りなす景観

生駒山系と直交する幹線道路（国道163号等）では、山並みが道路軸上の限られた範囲で意識され、道路沿道の建築物と一体となった景観がみられます。また山並みに沿って走る幹線道路（国道170号等）では、市街地調整区域で山並みと市街地とのつながりを感じさせる景観がみられます。

■ ポイント

- ◇沿道に立地する建築物は、生駒山系による自然景観との調和を意識した形態・意匠にしましょう。
- ◇道路正面の山すそは、アイストップとなるため、山並み正面の建築行為では、背景となる山並みに配慮しましょう。
- ◇沿道に立地する建築物では、敷際等の緑化を図り、山並みの緑との連続性に配慮しましょう。
- ◇山すそ市街地では、幹線道路等から眺望されることを意識し、スカイラインに配慮しましょう。

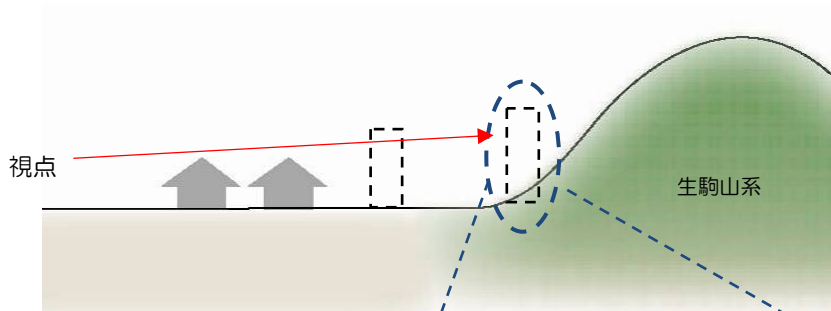


幹線道路沿道の建築物や山すそに広がる市街地、山並みが織りなす景観

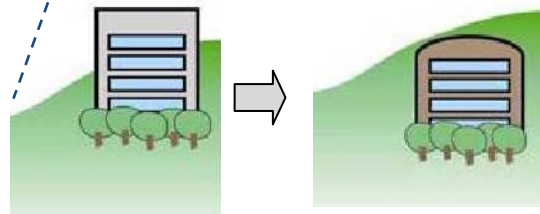
2 デザインの手法

■ ポリューム

- 幹線道路や公園、公共建築物、鉄道駅舎など、不特定多数の人が集まる視点場からの眺望を阻害せず、圧迫感を感じさせないような形状にしましょう

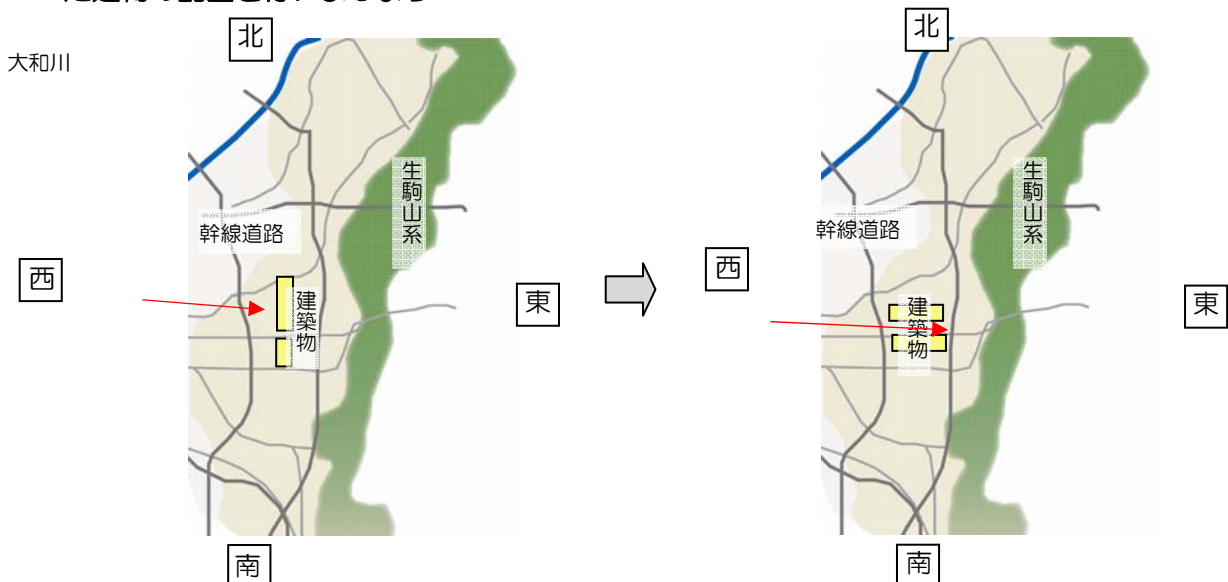


生駒山系は勾配が急なため、市街地との距離が近く感じます。そのため、近景からの視点を意識し、稜線を遮らないようにしましょう。



配置（建物）

- 幹線道路や公園、鉄道駅舎等からの視点を意識して、背景となる生駒山系への眺望に配慮した建物の配置を行いましょう

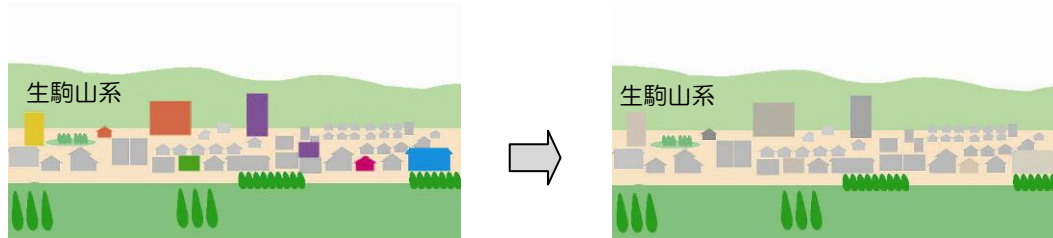


生駒山系は大阪平野の東側に位置する緑の帯として非常に重要な骨格軸となっています。建築物の計画にあたっては、背景となる生駒山系に対する幹線道路や公園等からの眺望が失われないように、建築物の配置等に配慮しましょう。

生駒山系は南北に延びているため、マンション等は南面（東西軸）配置にすることで日照条件が有利になります。

色

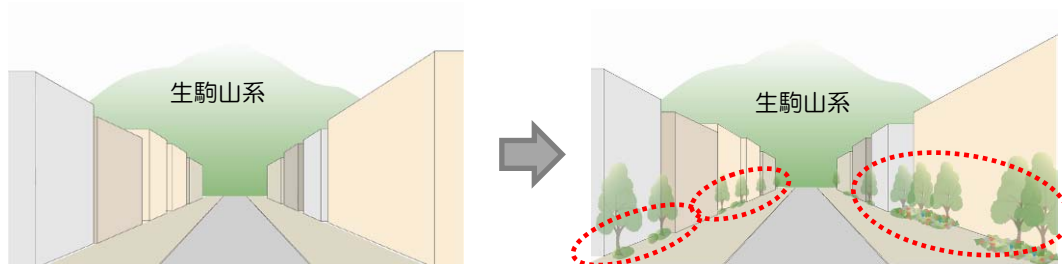
- 沿道等に立地する建築物は意匠等が周辺と比べて突出したものとならないよう、周辺の建築物や背景となる生駒山系になじむ色調を用いましょう



幹線道路や公園、鉄道駅舎等から見られることを意識し、背景となる生駒山系や周辺と調和する色を採用しましょう。

緑化

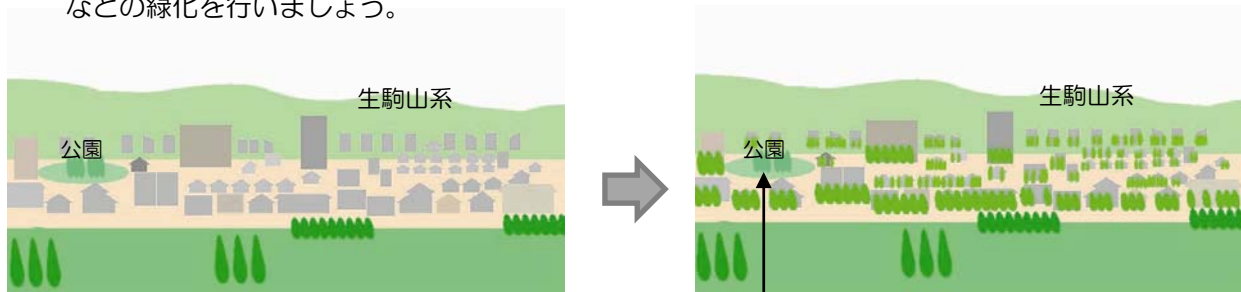
- 沿道に立地する建築物では、敷地等の緑化を図り、山並みの緑との連続性に配慮しましょう



壁面と敷地境界線とのスペースに緑化を行い、背景となる生駒山系との連続性を意識しましょう。

- 山すそ市街地では幹線道路等からの眺望を意識して、敷地内緑化や壁面緑化を行いましょう

幹線道路等からの眺めにおいて、背景となる生駒山系と調和するよう、敷地などに高木を配植するなどの緑化を行いましょう。



生駒山系区域には寝屋川公園など、多くの公園が分布しています。公園や緑地等付近の建築物は、公園等の緑とのつながりも意識して緑化に努めましょう。

1 景観の特性

■ 背景となる山並みと田園風景、山麓部の市街地、集落等が織りなす調和のとれた雄大な景観

大阪の南部を縁取る重要な緑の景観を形成する金剛・和泉葛城山系を背景として、石川が育んだ平野部・田園景観から山麓部や丘陵部に広がる市街地、山間部の集落が一体となった景観が見られません。

■ ポイント

- ◇背景となる山並みや田園風景と一体となった景観づくりを行いましょう。
- ◇幹線道路や河川敷、公園、公共建築物など、不特定多数の人が集まる視点場からの見え方に配慮した景観づくりを行いましょう。



山並みと田園風景、市街地等が織りなす雄大な景観

■ 山麓を通る旧街道沿道に歴史的な街並みや文化遺産が残り、歴史を感じさせる景観

京都から高野山への参詣道として用いられた東高野街道、堺市から東へ向かい二上山の南麓を越えて長尾神社付近に至る竹内街道、京都から大阪を経て熊野三山への参詣に利用された熊野街道が山麓部を通っており、沿道に残る街並みや、叡福寺、山中宿本陣などの歴史文化遺産等、歴史環境とのつながりを感じさせる景観がみられます。

■ ポイント

- ◇金剛・和泉葛城山系とその山麓等の地域が持つ歴史環境とのつながりを意識して、それらとの調和に配慮した景観づくりを行いましょう。



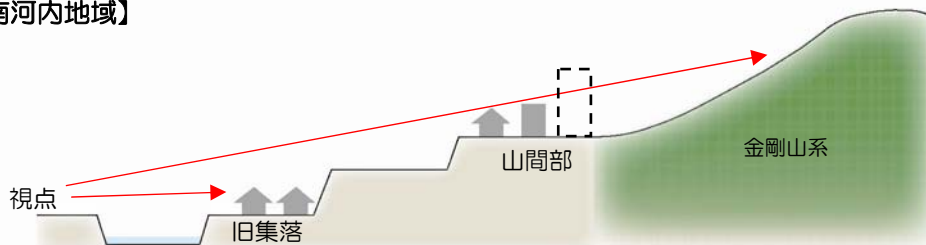
歴史環境とのつながりを感じさせる景観

2 デザインの手法

■ ボリューム

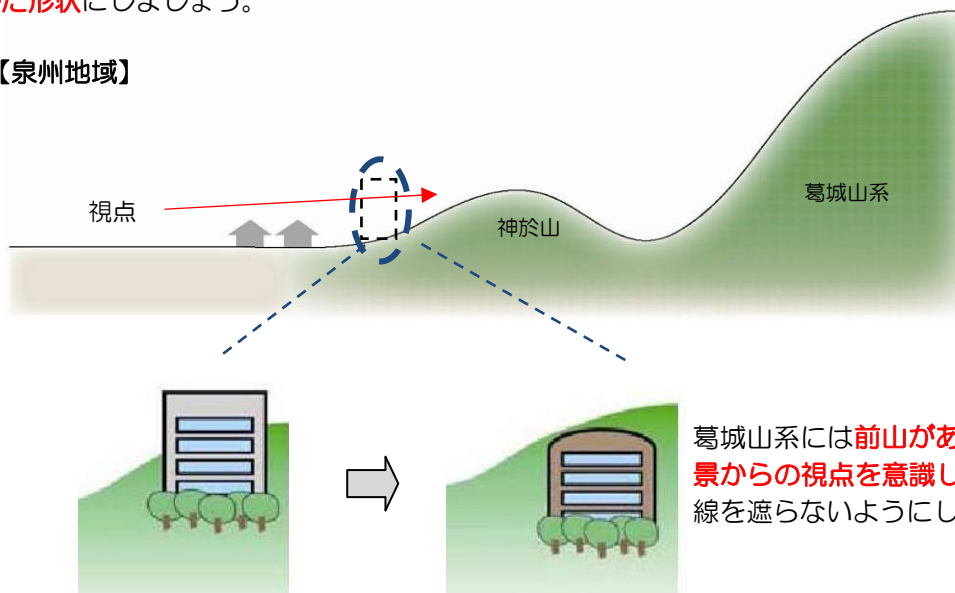
- 幹線道路や河川敷、公園、公共建築物など、不特定多数の人が集まる視点場からの眺望を阻害せず、圧迫感を感じさせないような形状にしましょう

【南河内地域】



金剛山系は河岸段丘のため見上げの景観になります。それにより、建築物の見かけの高さが実際の高さより高く感じます。そのため、**遠景から見た見かけの高さも意識した形状**にしましょう。

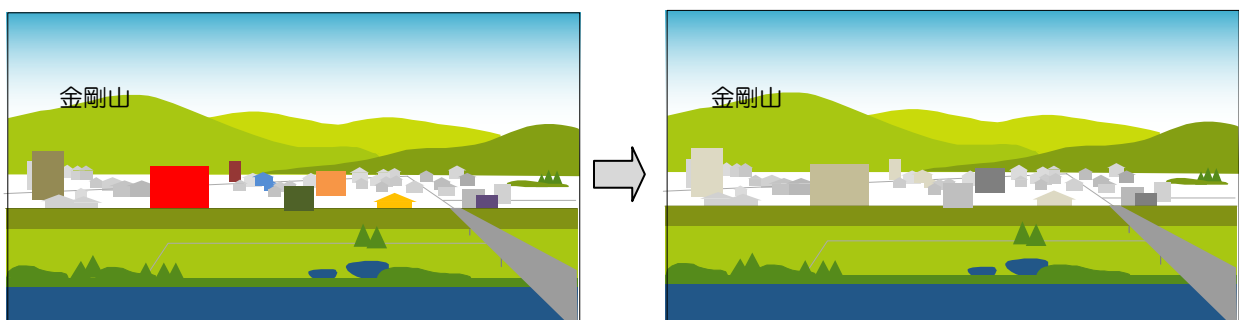
【泉州地域】



葛城山系には**前山があるため、近景からの視点を意識し、前山の稜線を遮らないように**しましょう。

■ 色

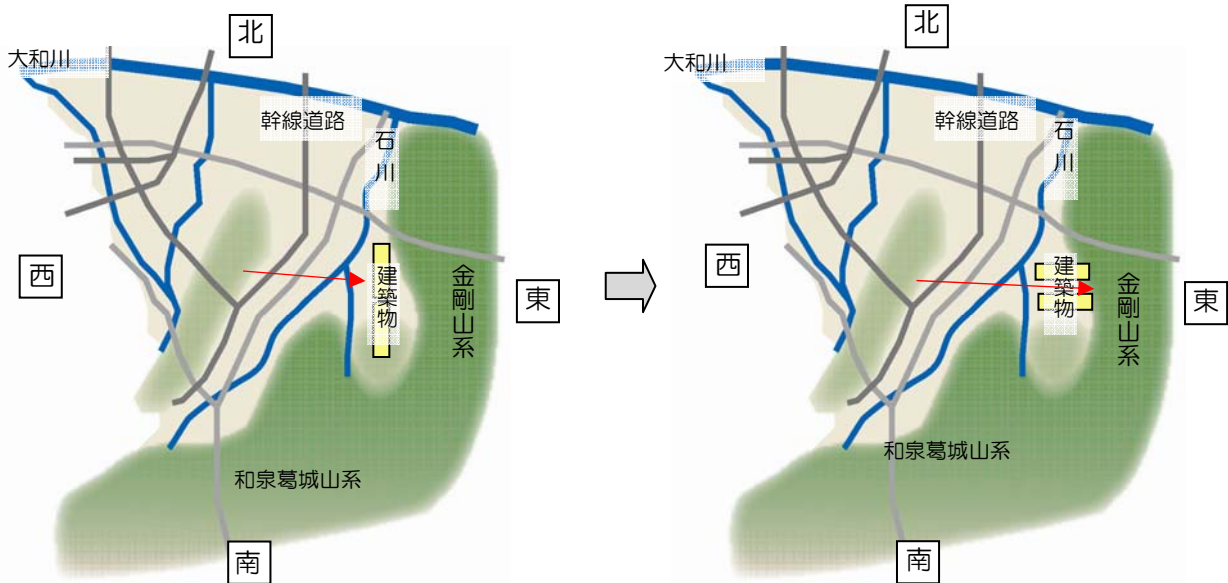
- 沿道等に立地する建築物は意匠等が周辺と比べて突出したものとならないよう、周辺の建築物や背景となる金剛・和泉葛飾山系になじむ色調を用いましょう



幹線道路や河川敷等から見られることを意識し、背景となる金剛、和泉葛城山系や周辺の田園風景と調和する色を採用しましょう。

■ 配置（建物）

- 幹線道路や河川敷、公園等からの視点を意識して、背景となる金剛、和泉葛城山系への眺望に配慮した建物の配置を行きましょう



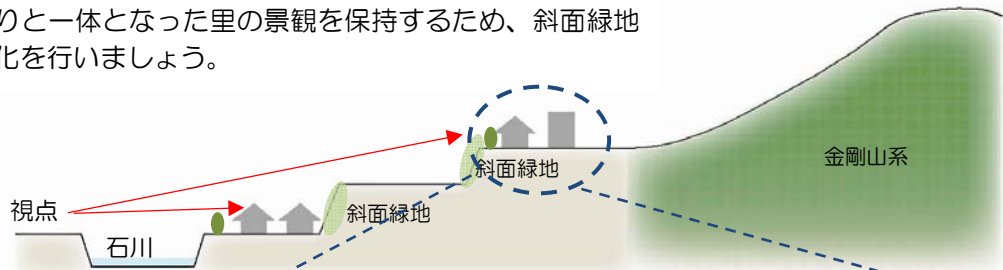
背景となる金剛、和泉葛城山系に対する幹線道路や河川敷からの眺望が失われないように、建築物の配置等に配慮しましょう。

石川の流れの東西に金剛山系があるため、マンション等は南面（東西軸）配置にすることで日照条件が有利になる場合があります。

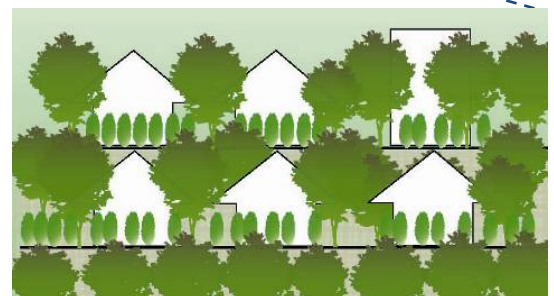
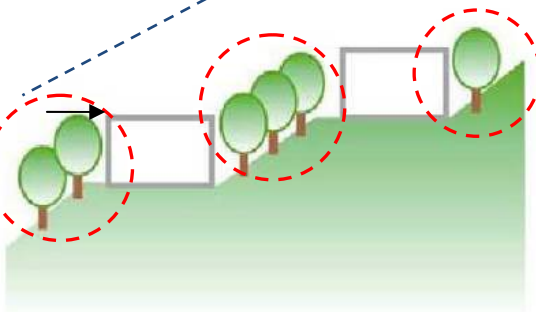
■ 緑化

- 田園景観を構成する集落、農地と石川との景観を維持し、背後の金剛・和泉葛飾山系との調和を図るため、敷地内緑化や壁面緑化を行きましょう

山々のみどりと一体となった里の景観を保持するため、斜面緑地や敷地内緑化を行きましょう。



幹線道路や河川からの眺めにおいて、背景の山並等と調和するよう敷地などへ高木配置しましょう。



正面から見ると山と一体的にまちなみが形成されているようになります。

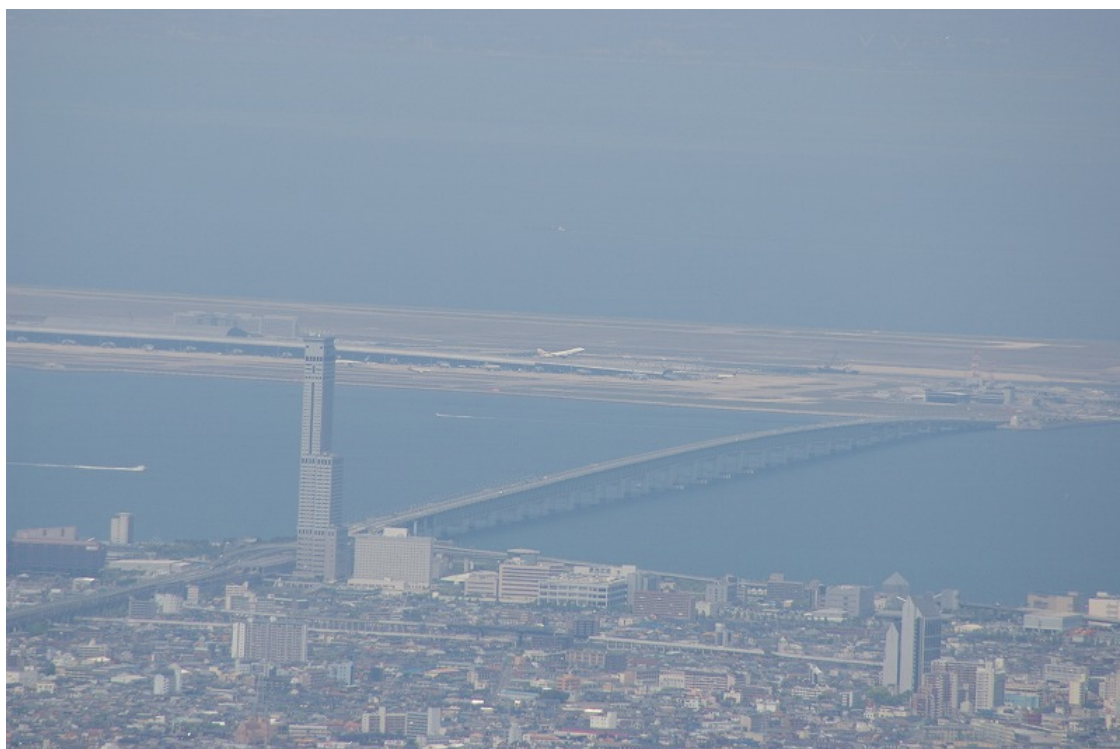
3 景観トピック

■ 金剛生駒紀泉国定公園からの眺望も意識しましょう

金剛生駒紀泉国定公園は、大阪府と奈良県にまたがる、生駒、葛城、金剛、岩湧などの優れた山脈景観と、その裾野に点在する社寺、旧跡などの価値が高く評価され、昭和33年4月に「金剛生駒国定公園」として指定されました。その後、平成8年10月に、豊かな自然・歴史・文化資源を有する和泉葛城山系（河内長野市南西部から泉南市堀河地区）が金剛生駒国定公園に編入され、名称も「金剛生駒紀泉国定公園」に変更されました。

和泉葛城山系は、大正12年に国の天然記念物に指定された和泉葛城山のブナ林をはじめ、環境省の特定植物群落にも選ばれた牛滝山や犬鳴山の自然林、三重の滝等豊かな森と水系から成り立っています。また、牛滝山大威徳寺や犬鳴温泉などの観光資源に恵まれていることに加え、関西国際空港や淡路島、紀ノ川、和歌山平野、遠くは大台・大峯の山々の大観が望めるなどの優れた眺望も有しています。

金剛生駒紀泉国定公園には、ハイキングや自然観察などで年間1,900万人が訪れていることから、幹線道路や河川敷からの金剛・和泉葛城山系に対する視点だけでなく、山頂からの視点も意識してみましょう。



関西国際空港方面への眺望

1 景観の特性

■ 雄大な淀川と大阪のまちなみや北摂・生駒の山並み等が調和した景観

雄大な淀川による水と緑の空間に、背後の大阪のまちなみや北摂や生駒の山並み等が映え、調和のとれた景観がみられます。

■ ポイント

- ◇沿川の建築物等は、対岸等の遠方から見られることを意識し、建物の外形や色調、スカイラインなどの周辺との調和に配慮しましょう。
- ◇淀川では沿川敷地が堤防より低いため、中高層建築がつくる景観が主体となります。特に高層や大規模な建築物では、橋梁や対岸等からの見え方に配慮しましょう。



雄大な淀川と大阪のまちなみや山並み等が調和した景観

■ 大阪の市街地に自然の潤いをもたらす景観

淀川の高水敷、河川堤防はほとんどが緑におおわれた広大な緑空間となっており、大阪の市街地に自然の潤いをもたらす、地域のより豊かな緑の景観形成に貢献しています。

■ ポイント

- ◇川沿いが淀川とともに潤いを感じる緑の帯となるように、沿川における敷地の緑化に努めましょう。



大阪の市街地に自然の潤いをもたらす景観

■ 水運など淀川とのかかわりを感じさせる景観

淀川の周辺には、水運などの淀川との関わりを物語る歴史文化遺産が各所に残されており、淀川と深い歴史を感じさせる景観となっています。

■ ポイント

- ◇淀川との関わりのある周辺の歴史文化遺産の把握に努め、地域の魅力ある景観づくりに活かしましょう。
- ◇淀川の堤防からの視線を意識し、できるかぎり建物の顔を淀川にも向けるようにしましょう。
- ◇工場等については、建物や設備等の美装化や設備等の見えにくい配置、植栽等による修景に努めましょう。

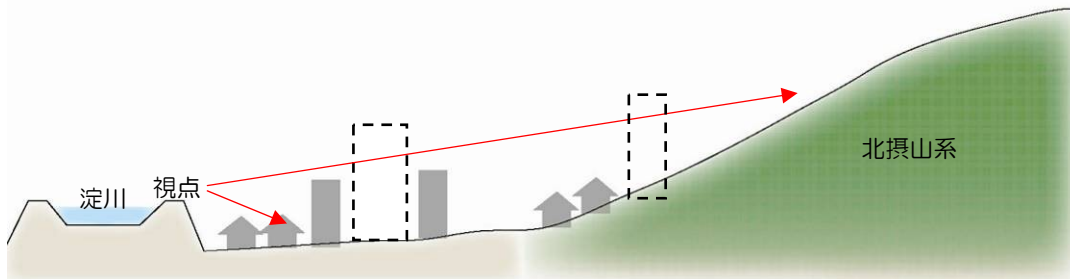


水運の歴史を感じさせる淀川沿いの景観

2 デザインの手法

■ ボリューム

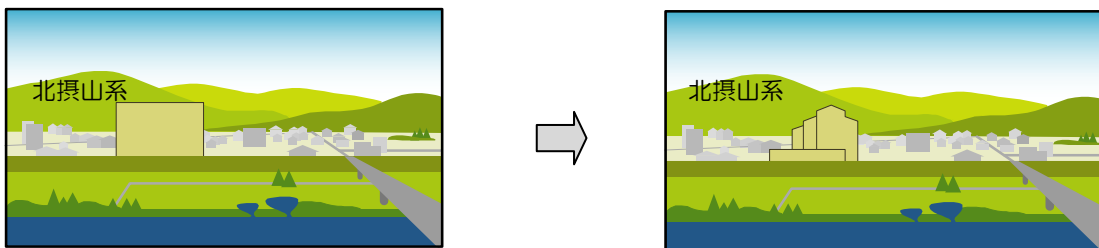
- 対岸や橋梁からの眺望を阻害せず、圧迫感を感じさせないような形状にしましょう



高層や大規模な建築物は、ランドマークやアイストップとなりやすいため、橋梁や対岸等からの見え方を意識し、スカイラインなど周辺との調和に配慮するとともに、背景となる遠景の山並みへの眺望を阻害しない形状にしましょう。

■ 形状

- 堤防から見下ろす視点を意識して背景となる北摂山系等と調和する形状にしましょう

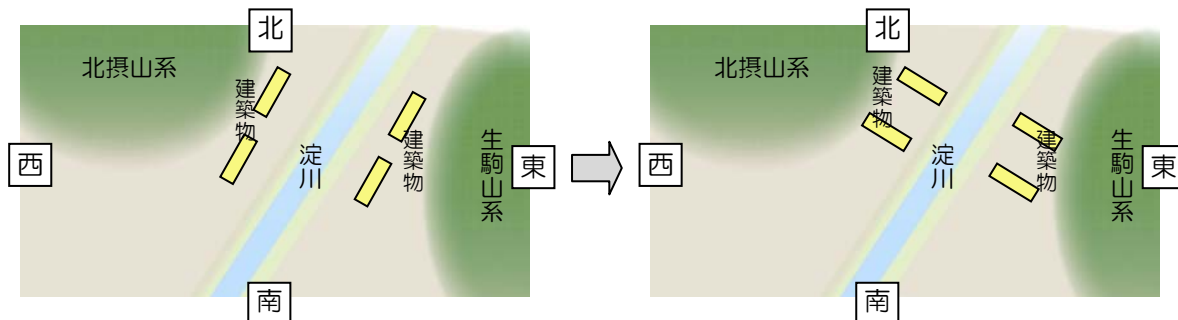


淀川は、沿川敷地が堤防より低いため見下ろしの景観となります。そのため、見下ろしの視点を意識した屋根形状にしましょう。

また、中高層建築物では背景となる北摂、生駒の山並みと調和するスカイラインにしましょう。

■ 配置（建物）

- 背景となる北摂、生駒の山並みへの眺望に配慮した建物の配置を行いましょう



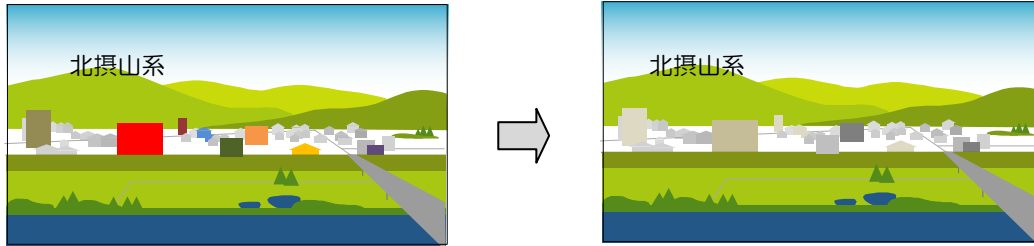
高層や大規模な建築物では、橋梁や対岸等からの見え方に配慮し、北摂、生駒の山並みなど背後の風景への視界を著しく遮らないようにしましょう。

淀川の流れの東西に北摂、生駒の山並みがあるため、マンション等は南面（東西軸）配置にすることで日照条件が有利になる場合があります。

また、淀川が東西に流れている区域では、マンション等を南北軸配置にすることで、大阪湾からの風が通り、通風の面で有利になる場合があります。

■ 色

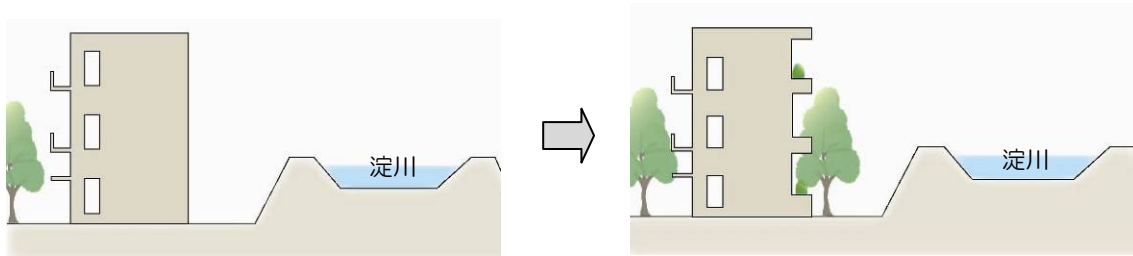
- 背景となる北摂、生駒の山並みや周辺になじむ色調を使いましょう



淀川は、沿川敷地が堤防より低いいため見下ろしの景観となります。そのため、見下ろしの視点を意識した屋根の配色を行いましょう
中高層建築物では背景となる北摂、生駒の山並みや周辺と調和する色調を採用しましょう。

■ 意匠

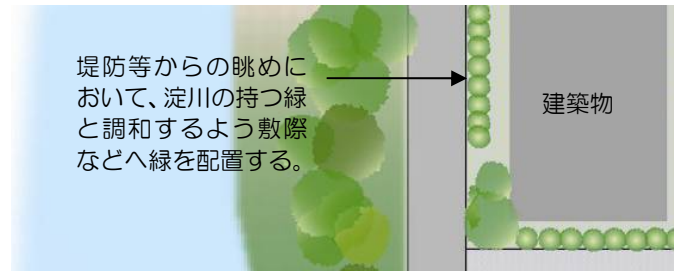
- 堤防からの視線を意識し、できるかぎり建物の顔を淀川にも向けるようにしましょう



淀川沿いの建物の多くは、都市側に表を向け、淀川に背を向けたデザインが多いですが、淀川側にも建物の顔を向けるなど、水辺に配慮した計画にしましょう。

■ 緑化

- 沿川部が淀川とともにうるおいを感じる緑の帯となるよう、河川側への緑化に努めましょう



- スーパー堤防上の敷地においては、河川の植栽とのつながりを意識しましょう



スーパー堤防事業等による高層マンションは河川側への広場や植栽などにより、淀川が持つ空間や自然などとの一体性に配慮しましょう。

1 景観の特性

■ 広々とした緑と水面のオープンスペースから沿川のまちなみを見下ろす景観

大和川では沿川敷地が堤防より低く、広々とした緑と水面のオープンスペースの向こう側に沿川のまちなみをひろく見渡せ、平面的な沿川景観が形成されています。

1 ■ポイント

- ◇沿川の建築物等は、対岸から見られることを意識し、外形や色調、スカイラインなど、周辺との調和に配慮しましょう。
- ◇沿川の高層や大規模な建築物等は、ランドマークやアイストップとなりやすいため、特に橋梁や対岸等からの見え方に配慮しましょう。



■ 大阪平野に潤いをもたらす大和川と緑の帯がいきいきした自然を感じさせる景観

大阪平野の中央部と南部の境を流れ、周辺の市街地に自然の潤いをもたらす大和川に沿ってみどりの帯を広げ、自然を感じる生き生きとした景観となっています

■ポイント

- ◇沿川部が大和川とともにうるおいを感じる緑の帯となるよう、地域にあった樹種の植栽等、周辺とのつながりに配慮し、沿川敷地の緑化に努めましょう。
- ◇スーパー堤防事業を契機としたまちづくり等による高層建築物等は、河川側への植栽の配置等により、大和川が持つ空間や自然等との一体性に配慮しましょう。



大和川と緑の帯がいきいきした自然を感じさせる景観

■ 大和川周辺の歴史文化遺産等やスーパー堤防とのつながりを感じさせる景観

大和川周辺の歴史的建造物、集落、古墳等の歴史環境や、スーパー堤防事業により沿川に建つ高層建築物とのつながりを感じさせる景観となっています。

■ポイント

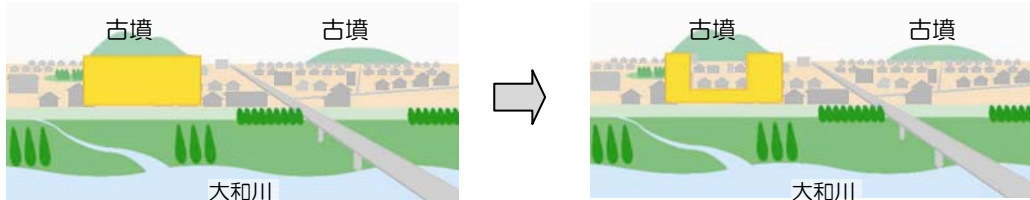
- ◇周辺にある大和川と関わりの深い歴史的建造物、古墳等の歴史文化遺産等を把握し、地域の魅力ある景観づくりに活かしましょう。
- ◇工場等は建物や設備等の美装化、設備等の見えにくい配置、植栽等による修景等の工夫に努めましょう。
- ◇スーパー堤防事業を契機としたまちづくり等により沿川に建つ高層建築物は、周辺からの眺望が失われないよう、配置や意匠等に配慮しましょう。



2 デザインの手法

■ ボリューム

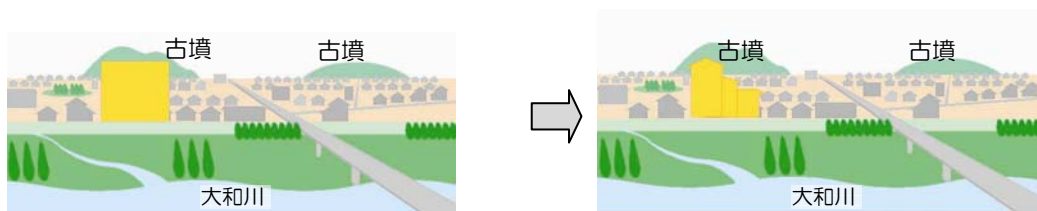
- 対岸や橋梁からの眺望を阻害せず、圧迫感を感じさせないような形状にしましょう



高層や大規模な建築物等は、ランドマークやアイストップとなりやすいため、特に橋梁や対岸等からの見え方に配慮し、壁面による圧迫感等を低減しましょう。

■ 形状

- 堤防から見下ろす視点を意識して背景となる古墳等と調和する形状にしましょう

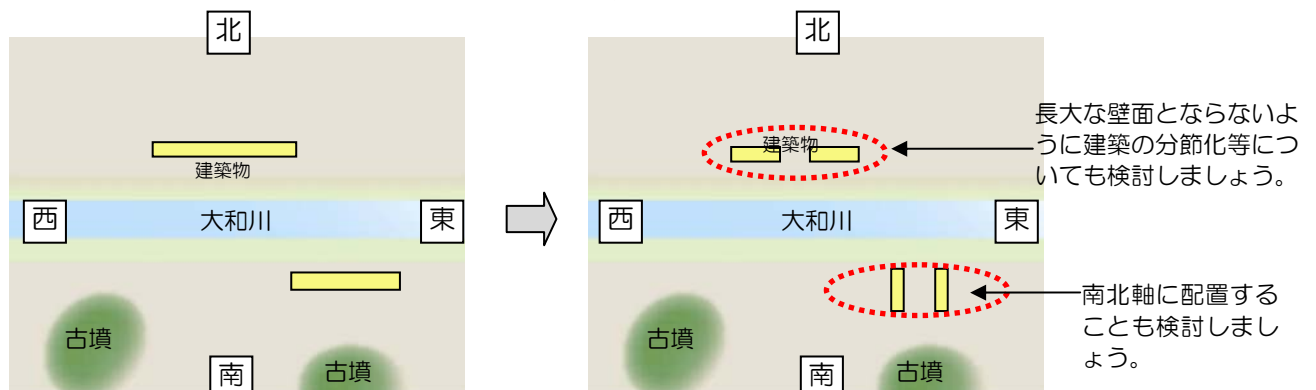


大和川は、沿川敷地が堤防より低いため見下ろしの景観となります。そのため、見下ろしの視点を意識した屋根形状にしましょう。

また、中高層建築物では背景となる古墳等と調和するスカイラインにしましょう。

■ 配置（建物）

- 背景となる金剛・和泉葛城山系や古墳等への眺望に配慮した建物の配置を行いましょう

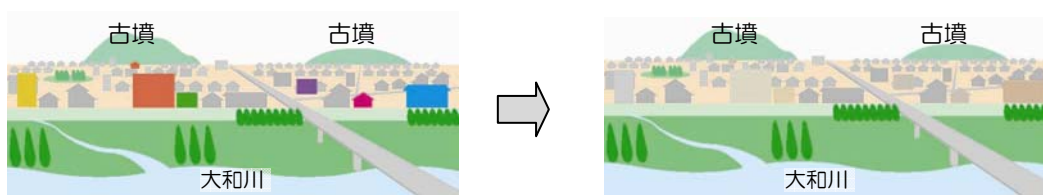


背景となる古墳に対する橋梁や対岸からの眺望が失われないように、建築物の配置等に配慮しましょう。

マンション等は南北軸配置にすることで、大阪湾からの風が通り、通風の面で有利になる場合があります。

■ 色

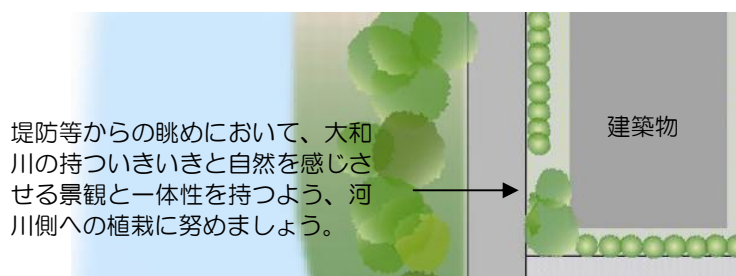
- 堤防から見下ろす視点を意識して屋根や外壁の色調を考えましょう



大和川は、沿川敷地が堤防より低いため見下ろしの景観となります。そのため、見下ろしの視点を意識した屋根の配色を行いましょう。
また、中高層建築物では背景となる古墳等と調和する色調にしまししょう。

■ 緑化

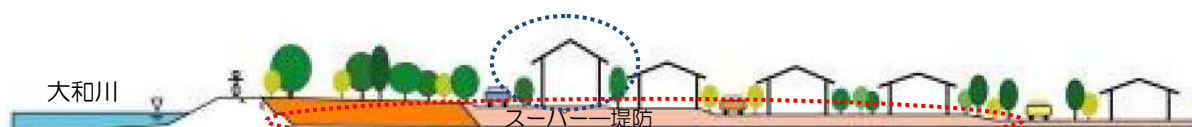
- 沿川部が大和川とともにうるおいを感じる緑の帯となるように、河川側への緑化に努めましよう



- スーパー堤防上の敷地においては、河川の植栽とのつながりを意識した植栽を行いましよう



堤防や橋梁からの眺めにおいて、富田林丘陵などの整った住宅を中心とするまちなみ、歴史を感じる集落や田園風景、生駒、金剛の山並みが、大和川が持つ緑の帯と調和するよう、敷地や法面などに植栽を配置しまししょう。



3 景観トピック

■ 大和川沿岸区域にある古墳群等に配慮しましょう

大和川の流域には、高井田横穴古墳群（柏原市）や長原古墳群（大阪市）などの多くの遺跡が残っており、大和川と当時の人々のつながりの深さを窺うことができます。

柏原市に位置する高井田横穴古墳群は、国の史跡に指定されており、約 36,000 m²が史跡高井田横穴公園として整備されています。公園内は、遊歩道に沿って横穴が見学できるほか、日本各地の横穴墓を紹介した広場などもあります。また、万葉植物やサクラ・ツツジ・モミジなどが多数植樹されており、四季の移ろいを感じることができます。

このように古墳等は、周辺地域を潤す重要なみどりの要素となっており、堤防や橋梁、対岸等からも眺望することができます。そのため、地域の魅力ある景観づくりに活かしましょう。

1 景観の特性

■ 金剛、和泉葛城の山並みやまちなみ、田園風景が一体となった奥行きのある景観

水と緑の空間と背後のまちなみや金剛・和泉葛城の山並みや富田林丘陵、田園風景が一体となり、奥行きのある景観となっています

■ ポイント

- ◇水と緑の空間と背後のまちなみや金剛・和泉葛城の山並みや富田林丘陵、田園風景が一体となるよう、対岸等からの見え方やスカイライン等に配慮し、石川の自然と調和のとれた景観づくりを行いましょ。
- ◇沿川の建築物等は、対岸からも視認され、地域の景観拠点となるため、石川が持つ空間や自然などとの一体性に配慮するとともに、眺望景観についても考慮し、良好な景観づくりを行いましょ。



橋梁から見渡せる山並みが背景となった奥行きのある景観

■ ゆったりと流れる川面と緑の帯が自然の潤いを感じさせる景観

ゆったりと流れる川面と緑の帯が南河内地域を南北に貫き、人々に自然の潤いを感じさせる景観となっています。

■ ポイント

- ◇沿川部が石川とともにうるおいを感じる緑の帯となるよう、地域にあった樹種の植栽等、周辺とのつながりに配慮し、自然を感じる生き生きとした景観づくりを行いましょ。



田園風景と山並み、川面が一体となり自然の潤いを感じさせる景観

■ 石川の自然やまちなみと古墳などの歴史文化遺産が融和した景観

寺内町や古市周辺の歴史的まちなみ、古墳群など、石川沿岸に今も残る歴史文化遺産と石川の水と緑の自然環境とが融和した景観が見られます。

■ ポイント

- ◇周辺にある石川と関わりの深い寺内町や古墳等の歴史文化遺産等との調和や一体性に配慮し、それらの地域資源を活かした景観づくりを行いましょ。
- ◇寺内町や古市周辺の歴史的まちなみ等、東高野街道、竹内街道沿道に残る石川とのつながりが深い集落では、それぞれの集落にふさわしい伝統文化が感じられる景観づくりを行いましょ。
- ◇玉手橋、臥龍橋、石川サイクル橋といった特色ある橋梁等付近における建築物等は名所的な空間となるよう意匠等に配慮した景観づくりを行いましょ。

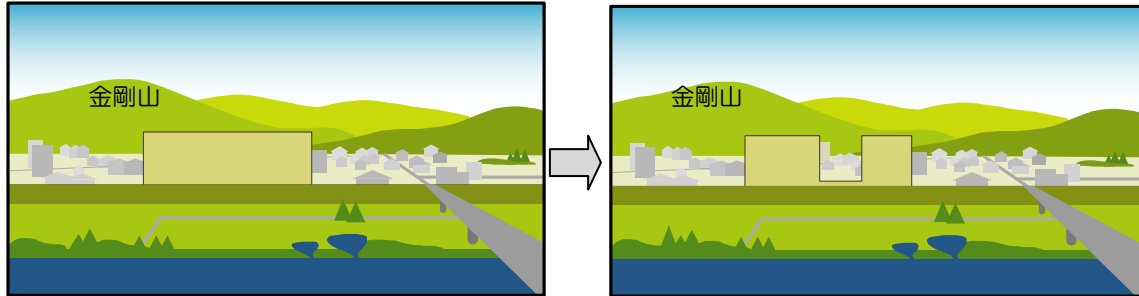


石川の自然や古墳、まちなみが融和した景観

2 デザインの手法

■ ポリューム

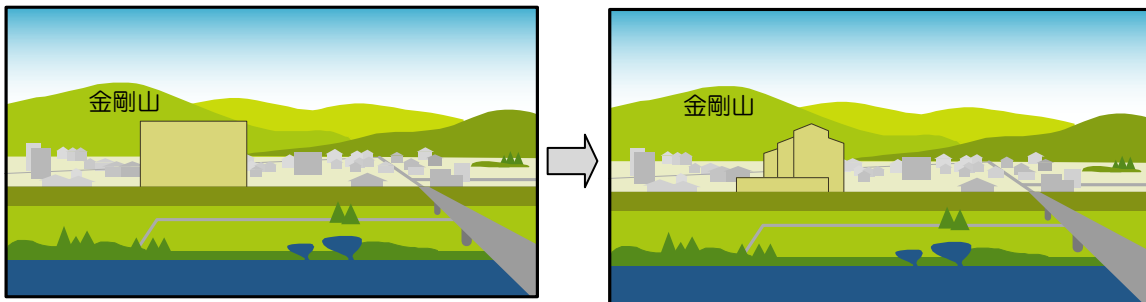
- 対岸や橋梁からの眺望を阻害せず、圧迫感を感じさせないような形状にしましょう



金剛、和泉葛城山系や周辺の田園風景が一体となった景観を阻害しないように建物の分節化等を行い、壁面による圧迫感を低減しましょう。

■ 形状

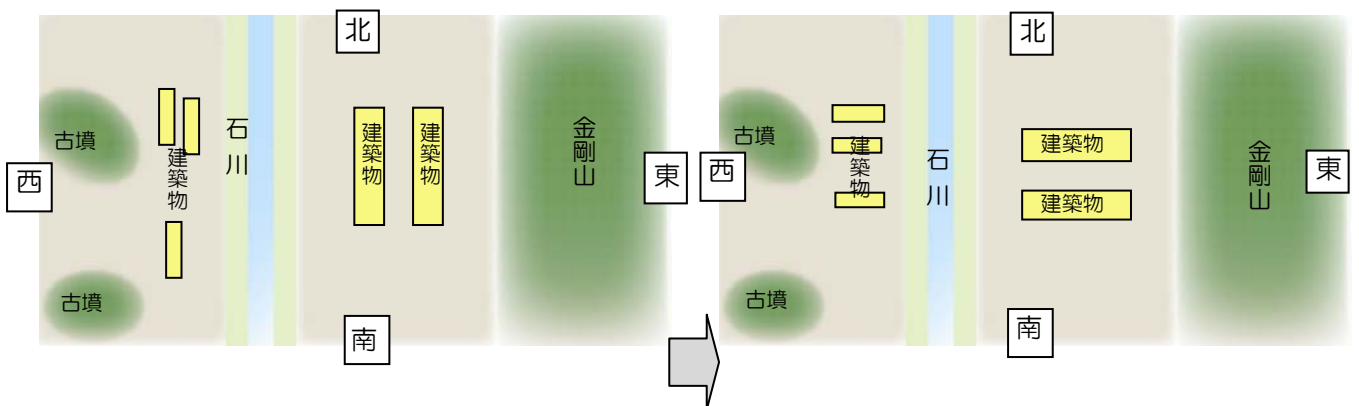
- 背景となる金剛、和泉葛城山系と調和する屋根の形状にしましょう



富田林丘陵や金剛、和泉葛城の山並みに配慮した美しいスカイラインをつくりましょう。

■ 配置（建物）

- 背景となる金剛、和泉葛城山系や古墳等への眺望に配慮した建物の配置を行いましょう

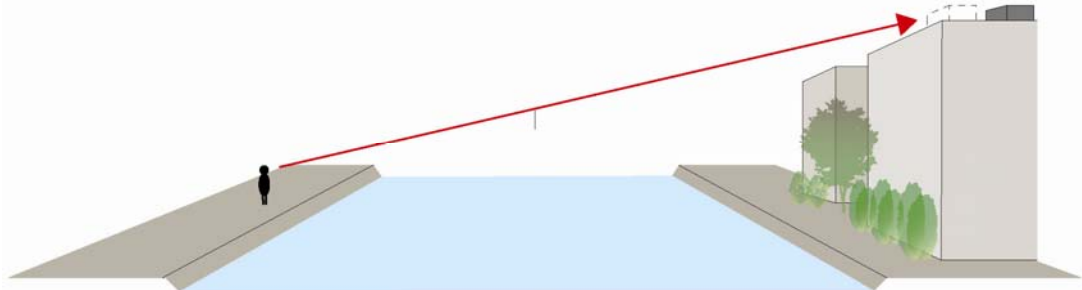


背景となる金剛、和泉葛城山系や古墳等に対する橋梁や対岸からの眺望が失われないように、建築物の配置等に配慮しましょう。

石川の流れの東西に金剛山や古墳があるため、マンション等は南面（東西軸）配置にすることで日照条件が有利になる場合があります。

■ 配置（設備等）

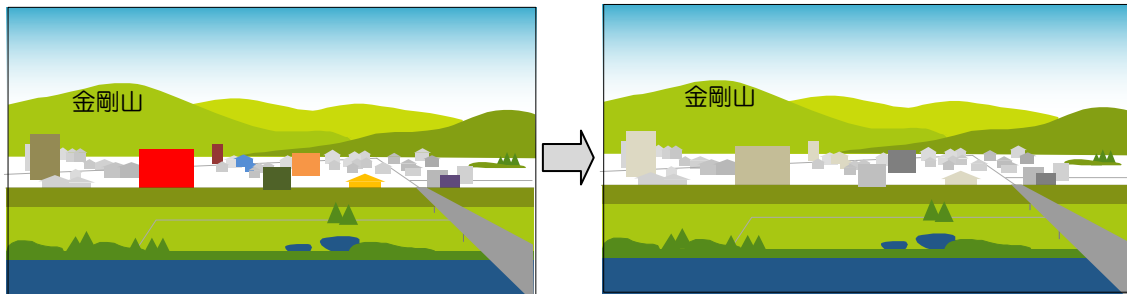
- 工場等は、対岸等からの見え方に配慮して、建物や設備等の見えにくい配置による修景を行いましょう
- ◆ 石川からの見上げる視点を活かして対岸から見えにくい位置に設備を設置しましょう



石川から周辺の建物を見ると見上げる視点になります。そのため、付帯設備類は後退させて配置することで対岸から見えづらくなるよう工夫しましょう。

■ 色

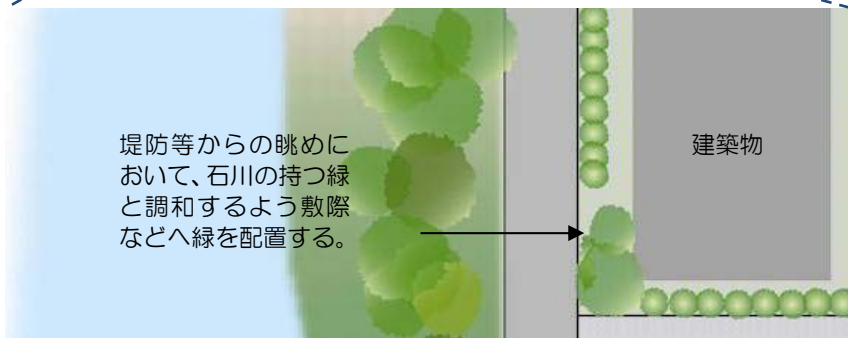
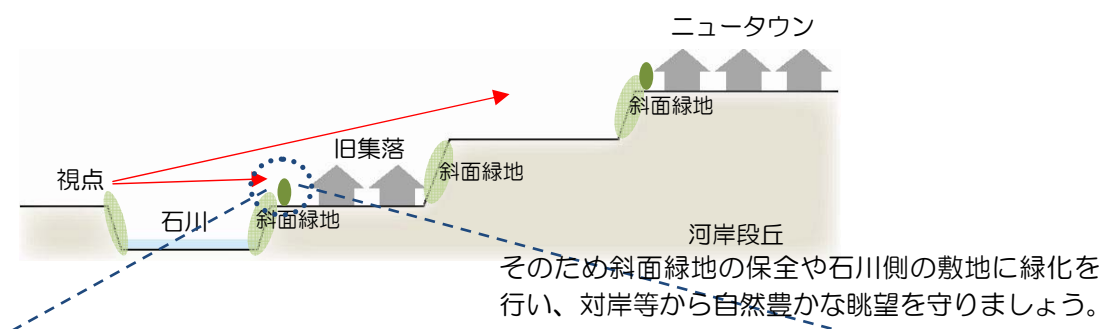
- 背景となる金剛、和泉葛城山系や田園風景になじむ色調を用いましょう



対岸等から見られることを意識し、背景となる金剛、和泉葛城山系や周辺の田園風景と調和する色を採用しましょう。

■ 緑化

- 河川側への緑化により、河岸段丘の斜面緑地と一体となった自然豊かな景観を保持しましょう



堤防や橋梁からの眺めにおいて、周辺の田園風景や東高野街道、竹内街道沿道に残る緑と一体となった緑の帯と調和するよう、敷地や法面などに植栽を配置しましょう。

3 景観トピック

■ 石川沿岸区域にある歴史を感じる文化遺産を活かしましょう

石川沿岸区域には地域の歴史を伝える文化的資源が多く点在しています。

古墳等においては堤防や橋梁、対岸等から見る事ができるため、地域の魅力ある景観づくりに活かしましょう。そのためにも石川と関わりのある周辺の歴史的建造物、集落、古墳、記念碑、道標等の歴史環境や文化遺産等を把握するようにしましょう。

◇地域の歴史を伝える文化的資源

仁徳陵古墳、応神陵古墳、竹内街道、高野街道、富田林寺内町 など



応神陵古墳



富田林寺内町

■ 地域にあった樹種を敷際に植えましょう

石川沿岸区域は沿川部に田園風景等が広がっており、自然を感じる生き生きとした景観となっています。そのため、住宅地においても周辺とのつながりに配慮し、敷際に植栽を行ったり、プランターで花を育てたりして、自然を感じる景観の保全に努めましょう。

敷際に木を植える場合には、その地域にあった樹種を選択することも大切です。市町村には各々「市町村の花」「市町村の木」が決められているので、樹種を選択する際のヒントにしてみるのも良いでしょう。

◇市町村の木



羽曳野市の木：タチバナ



柏原市の木：コノテガシワ



藤井寺市の木：ウメ

1 景観の特性

工場やプラント、倉庫、資材置き場などの施設が立地する産業景観

工場やプラント、倉庫等の建築物等や、資材置き場が立地する、都市の活力を担う産業地区としての景観を形成していますが、うるおいにける景観となっている場所もあります。

■ポイント

- ◇産業施設の機能を重視しつつも、周辺の街並みや親水空間と調和する景観づくりを行いましょ
- ◇うるおいのある景観形成を進めるために、緑化の推進や、単調とまらないような工夫を行いましょ



工場やプラント等による産業地区としての景観

高層建築物や商業施設、橋梁等がランドマークとなり、魅力的で活気のある都市景観

商業・業務地区における商業施設や高層のホテル、共同住宅、橋梁など、地区のランドマークとなる施設等が立地しており、魅力的で活気と賑わいを感じる景観が見られます。

■ポイント

- ◇海外からの玄関口となる関西空港連絡橋・阪神高速湾岸線や海から見られることを意識した景観づくりを行いましょ。
- ◇地区のランドマークとなる建築物やその周辺の建築物については、湾岸にふさわしい特徴的な空間となるよう、外観の意匠や色彩等に配慮しましょ。



ランドマークとなるような橋梁や建物がある魅力的で活気のある都市景観

漁港やマリーナ、海水浴場などが広く分布し、「海」を感じる海辺特有の景観

漁船やヨットなど船舶が係留された港の風景や、海水浴場などの海辺のレクリエーション施設などが、大阪湾沿岸に広く分布しており、身近に「海」の存在を感じることができる、海辺特有の景観が見られます。

■ポイント

- ◇港湾地区やレクリエーション施設に隣接する施設は、水辺を意識した個性的で親しみのもてる景観づくりを行いましょ。
- ◇海辺に立地する建築物は、水辺からの視線を意識し、海辺の自然環境と一体となるような景観づくりを行いましょ。
- ◇岸和田大橋、泉南マリブリッジ、田尻スカイブリッジといった特色ある橋梁等付近における建築物等は名所的な空間となるよう意匠等に配慮した景観づくりを行いましょ。

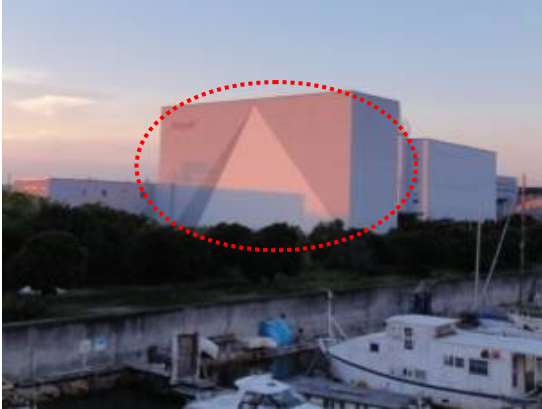


海水浴場など「海」を感じる海辺特有の景観

2 デザインの手法

■ 形状

- 海側からの視点や高速道路、高速道路からの視点を意識して、大規模な壁面を持つ建築物は単調とならないような凹凸等の工夫をするなど形状に配慮しましょう



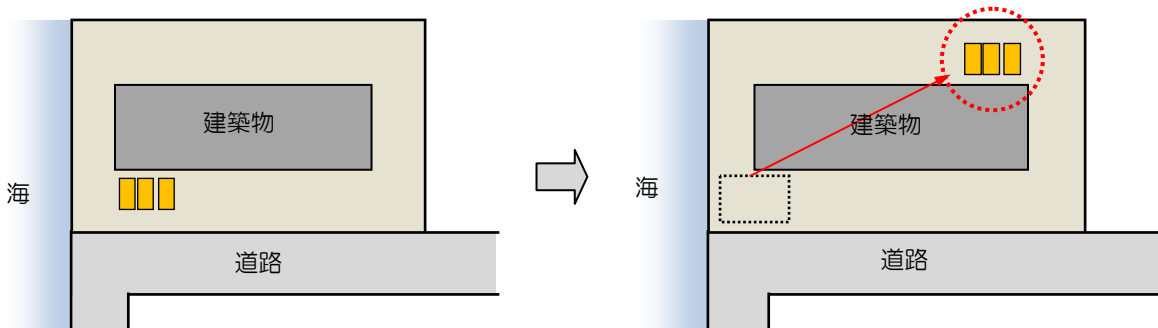
長大かつ単調な壁面とならないように、壁面に適度な変化を持たせましょう。

- 地域のアイスポットやランドマーク的な景観となるよう、外観の意匠や形状に配慮しましょう



■ 配置（設備等）

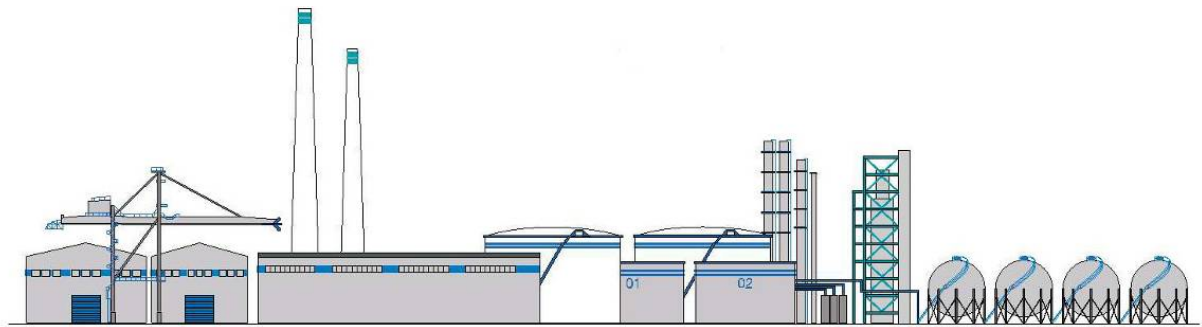
- 工場等の設備や資材置場は、目立ちにくい場所に配置する等、見苦しくならないよう親水空間からの見え方に配慮しましょう



工場等の設備や資材置場は道路や海辺からできるだけ離したり、建築物の裏側に配置するなどの工夫を行いましょ。

■ 色

■ 周辺のまちなみとの調和を大切にしつつ、湾岸においてアクセントとなり、海辺の景観にふさわしい色調にしましょう



工場等は規模が大きいものが多いので、大きな壁面が単調にならないようサブカラーでアクセントをつけるなど、海側や幹線道路からの遠景を意識した配色を行いましょう。また、異なる施設同士との調和にも努めましよう



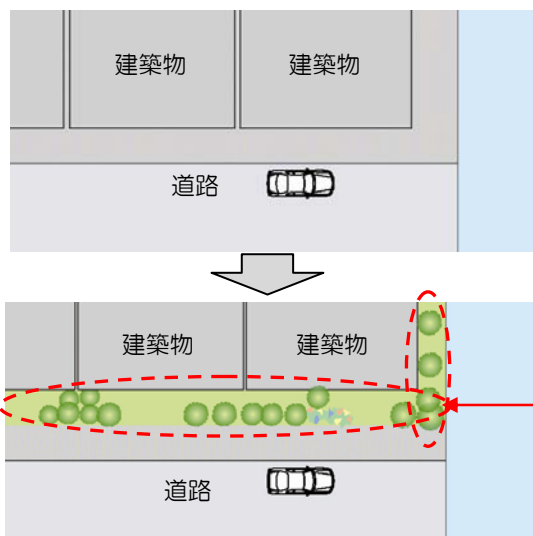
対岸や海からみる遠景を意識し、水面との調和した色調を選びましよう。



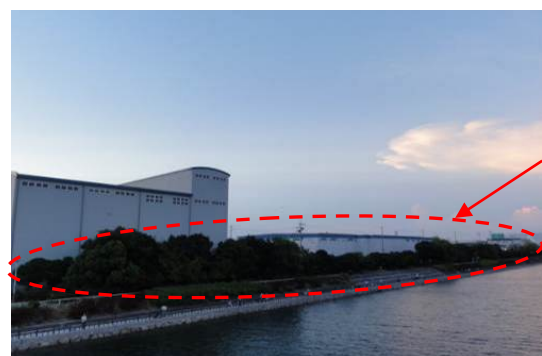
商業施設等では周辺のまちなみとの調和を大切にしつつ、水辺を意識し、個性的で親しみが持てる配色を行いましょう。

■ 緑化

■ 道路との敷地及び海際における緑化を行うことで自然環境と一体となった湾岸風景づくりを進めましよう



建物敷地境界との間に緑化を行う



大規模な工場における敷地内緑化の例

建築物を敷地境界線から離すなど、ゆとりを持たせた配置とし、道路との敷地及び海際を緑化することで自然と一体となった景観づくりを行いましょう。

3 景観トピック

■ 地区のランドマークとなる橋梁を活かした景観づくりを行いましょ

大阪湾岸区域には湾岸地区にふさわしい特徴的なランドマークとして橋梁が多く存在しています。湾岸沿いの幹線道路は見通しが良く、大阪湾のカーブに沿って、橋梁と周辺の建築物が一体となってドライバーの目に飛び込んできます。そのため、橋梁付近における建築物等では、湾岸にふさわしい特徴的な空間となるよう意匠等に配慮しましょう。

それぞれの橋梁も様々なイメージからデザインが決められています。例えば岸和田大橋はだんじり祭りをイメージしています。また、泉南マリブリッジは大波のように左右にうねっている形状が特徴で、名前の由来ともなっています。

橋梁付近の敷地で建築物を設計する際には、その橋梁のデザインイメージを調べてみるのも良いでしょう。

◇ランドマークとなっている橋梁の例



岸和田大橋



泉南マリブリッジ



田尻スカイブリッジ

■ 工場群が作り出す魅力的な夜景づくりを行いましょ

大阪湾岸の北部では、埋立て地に港湾施設、工場、物流施設、倉庫が立地し、大規模な産業景観を形成しています。これらの工場等は、夜になると作業用の明かりが灯り、ダイナミックな夜間景観を生み出しています。

そのため湾岸区域で建築物を計画する際には照明にも配慮し、幹線道路等からの夜間景観を向上させ、港の美しさを演出することを心がけましょう。



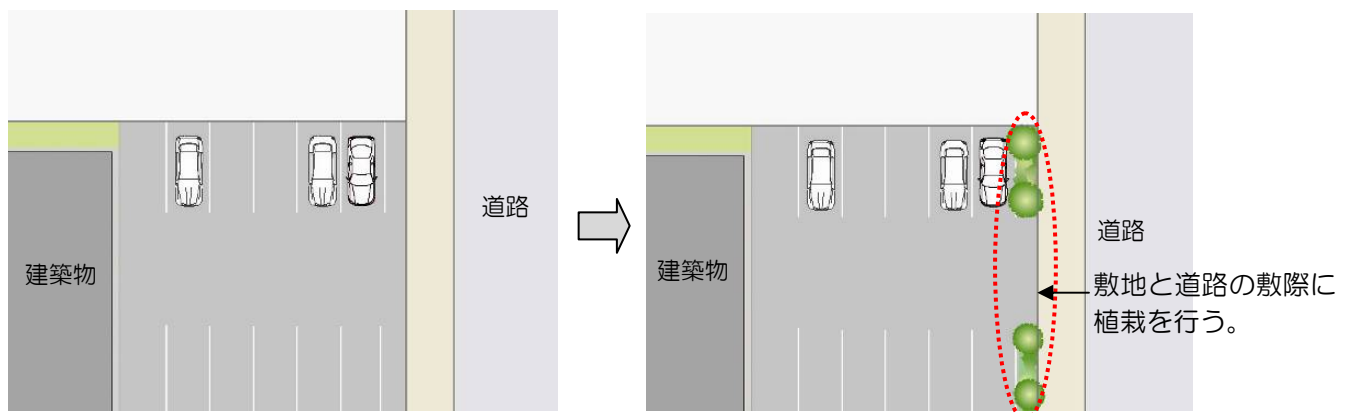
1 基本的な考え方

屋外によくある駐車場、駐輪場及びごみ置場等は、何も考えずに配置すると景観に悪影響を及ぼす場合があります。それらに対して緑化や花による修景を行うことにより、四季の変化が感じられえるまちなみを形成していきましょう。

2 デザインの手法

■ 駐車場、駐輪場及びごみ置場等

- 敷地の外から見える場所に配置する場合は、植栽により修景をしましょう
また建築物若しくは塀と一体化する等により、見苦しくならないような工夫をしましょう



駐車場、駐輪場及びごみ置場等と道路との境界に植栽を配置し、目立たなくするとともに敷際にうるおいをあたえましょう。



駐車場と道路の境界に植栽を配置し目立たなくするとともに敷際にうるおいを与えています



駐輪場の壁面を緑化し、印象をやわらげる工夫をしています



駐車場に目隠しのルーバーを設置し、目立たなくしています



建物と一体化した壁面により奥の駐車場を目立たなくしています

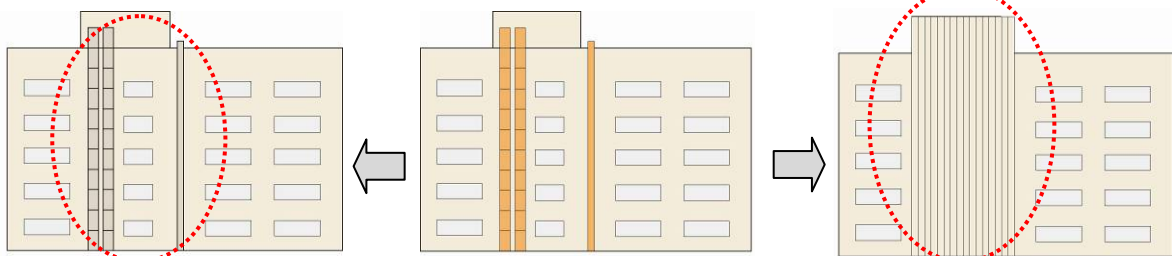
1 基本的な考え方

建築物には必ず設備機器があります。それらを何も考えずに配置すると景観に大きな悪影響を与えることがあります。そのため、それらの配置に配慮した建築等の計画を進めていきましょう。

2 デザインの手法

ダクト類

- 敷地の外から見える位置に配置しないようにしましょう
また、建築物と一体化する等により、見苦しくならないような工夫をしましょう



壁面と調和する色調にしましょう。

ダクト等を外壁面に露出させないようにしましょう。

屋外階段

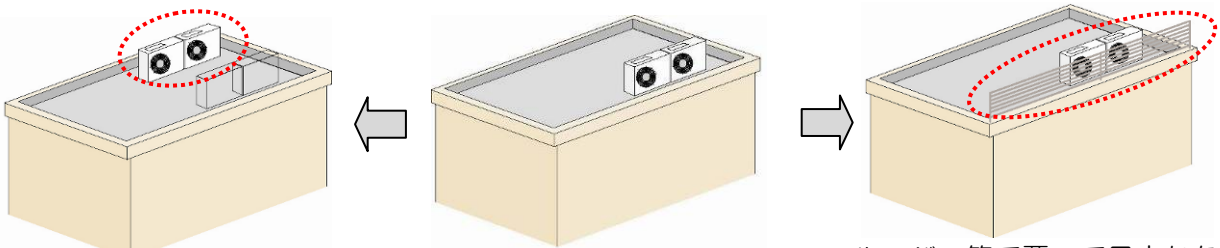
- 建築物と一体化する等により、見苦しくならないような工夫をしましょう



屋外階段を設置する場合は建物のデザインと合わせ突出しない工夫をしましょう。

エアコンの室外機等

- 敷地の外から見える位置に配置しないようにしましょう
やむを得ず見える位置に配置する場合は、見苦しくならないような工夫をしましょう

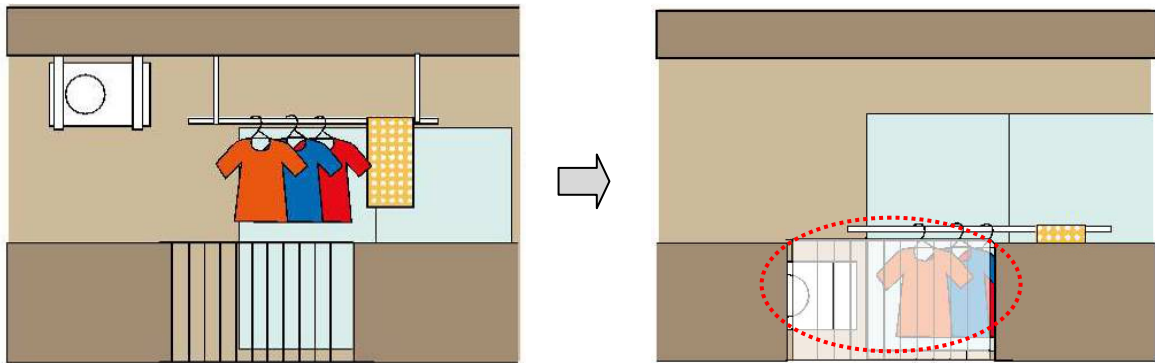


見えにくい位置に配置しましょう。

ルーバー等で覆って目立たない工夫をしましょう。

■ 物干金物等

■ バルコニーは洗濯物等が敷地の外から見えにくいデザインにしましょう



外壁と一体的なバルコニーですっきりとしたデザインになっています。



スリガラスを用いると内部が見えにくくなります。



一部にガラスを用いて軽やかな印象をあたえています。

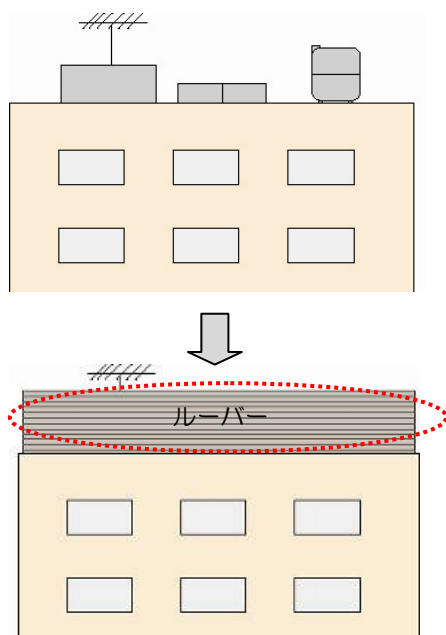
1 基本的な考え方

建築物に付属する設備機器は屋上にまとめて設置される場合があります。その場合も外からの見え方に配慮し、よりよい景観となるような工夫をしましょう。

2 デザインの手法

■ 高架水槽及び屋上設備

- 敷地の外から見える位置に配置しないようにしましょう
やむを得ず見える位置に配置する場合はルーバーを設置し、又は建築物と一体化する等により、見苦しくならないような工夫をしましょう



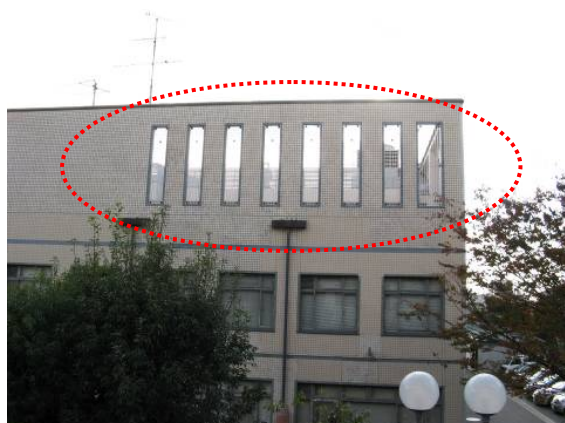
ルーバー等で覆って目立たない工夫をしましょう。



屋上にルーバーを設置して、目立たなくしています。

■ 屋上工作物及び塔屋

- 建築物と一体化する等により、見苦しくならないような工夫をしましょう



塔屋等を建築物の意匠と一体的にデザインし、すっきりとした屋上にしましょう。

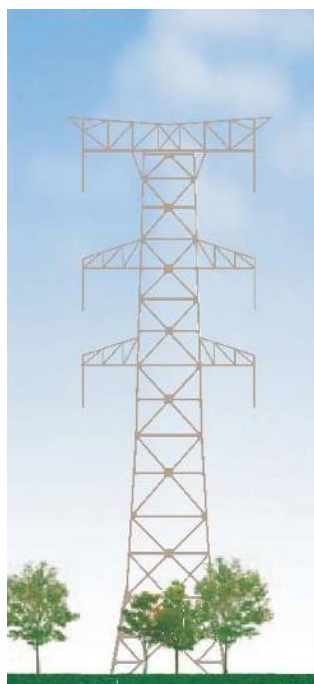
1 基本的な考え方

工作物は機能を満たすだけでなく、地域のまちなみと調和するようなデザインとなるよう配慮し、よりよい景観となるような工夫をしましょう。

2 デザインの手法

■ 鉄塔及び煙突等

■ 周辺のまちなみや建物と調和する色彩を使用しましょう



周辺に調和する色彩を使用しましょう。



発行 2012年4月
企画・編集 (社)大阪府建築士事務所協会
〒540-0011
大阪府大阪市中央区農人橋 2-1-10
06-6946-7065
作成協力 大阪府、近畿大学久教授研究室